

令和2年第14回

札幌市教育委員会会議録

令和2年第14回教育委員会会議

- 1 日 時 令和2年7月29日(水) 13時30分～18時00分
- 2 場 所 札幌市民交流プラザ3階 クリエイティブスタジオ
- 3 出席者
- |                               |     |     |
|-------------------------------|-----|-----|
| 教 育 長                         | 長谷川 | 雅 英 |
| 委 員                           | 阿 部 | 夕 子 |
| 委 員                           | 佐 藤 | 淳   |
| 委 員                           | 石 井 | 知 子 |
| 委 員                           | 道 尻 | 豊   |
| 教育次長                          | 檜 田 | 英 樹 |
| 生涯学習部長                        | 小田原 | 史 佳 |
| 学校教育部長                        | 相 沢 | 克 明 |
| 教育推進課長                        | 佐々木 | 薫   |
| 学事係長                          | 茂 木 | 貴 徳 |
| 学事係員                          | 奥 山 | 玲 太 |
| 教育課程担当課長                      | 佐 藤 | 圭 一 |
| 教職員育成担当課長                     | 市 川 | 恵 幸 |
| 企画担当係長                        | 渡 辺 | 一 生 |
| 義務教育担当係長                      | 山 下 | 敦 史 |
| 義務教育担当係長                      | 三 浦 | 敦 司 |
| 中学校部会                         |     |     |
| 外国語小委員会委員長                    | 高 橋 | 伸 吾 |
| 教科用図書選定審議会委員<br>(研修担当係長)      | 上 野 | 智恵美 |
| 音楽小委員会委員長                     | 藤 本 | 尚 人 |
| 教科用図書選定審議会委員<br>(研修担当係長)      | 河 合 | 博 子 |
| 道徳小委員会委員長                     | 小 村 | 淳   |
| 教科用図書選定審議会委員<br>(児童生徒担当係長)    | 高 橋 | 智 子 |
| 保健体育小委員会委員長                   | 富 川 | 浩   |
| 教科用図書選定審議会委員<br>(義務教育担当係指導主事) | 大 卷 | 太 一 |

社会小委員会委員長	大 浦 司
教科用図書選定審議会委員 (企画担当係長)	高 橋 健 一
教科用図書選定審議会委員 (義務教育担当係長)	阿 部 晋 也
総務課長	井 上 達 雄
庶務係長	松 平 健 次
書 記	寺 川 嘉 一

4 傍聴者 29名

5 議 題

協議第1号 令和3年度使用教科用図書の選定について

## 【開 会】

○長谷川教育長 これより、令和2年第14回教育委員会会議を開会いたします。

本日の会議録の署名は、佐藤淳委員と道尻豊委員にお願いいたします。

なお、中野倫仁委員より、所用により会議を欠席される旨の連絡がございました。

## 【議 事】

◎協議第1号 令和3年度使用教科用図書の選定について

○長谷川教育長 それでは、議事に入ります。

協議第1号は、令和3年度使用教科用図書の選定についてです。

改めまして、私から、教科書採択の流れについて確認させていただきます。

せんだって、事務局から説明がありましたとおり、4回の教育委員会会議を開催して審議をすることとなります。4回の会議のうち、選定のための審議は一昨日と本日、そして8月7日（金）の計3回で行い、その結果を受けて、8月20日（木）の4回目で採択することになります。

一昨日の1回目で中学校部会の五つの小委員会を対象に審議を行いましたので、2回目の本日は、外国語、音楽、道徳、保健体育、社会の順に、残りの五つの小委員会を対象といたします。

前回と同様に進めたいと思いますけれども、それでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長谷川教育長 まず、各科目の審議に入る前に、教科書採択の任を負っている私たちは、札幌市の教科書採択の公正性、中立性をしっかりと確保しなければなりません。

私から、委員の皆さんに確認をさせていただきます。

前回7月27日の教育委員会会議終了後、本日までに、特定の組織や団体あるいは会社等から働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

（「はい」と発言する者あり）

○長谷川教育長 ただいま、皆さんから、影響力の行使や圧力等はなかったとの回答をいただきましたので、私たち5人による協議は、教科書採択の公正性、中立性を確保し得るものであると判断いたします。

それでは、審議に入ります。

まず、英語から始めます。

私から、小委員会委員長に確認をさせていただきます。

特定の組織や団体あるいは会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はないでしょうか。

○外国語小委員会委員長　ございません。

○長谷川教育長　それでは、委員長から、英語の調査研究報告（答申）の説明をお願いします。

○外国語小委員会委員長　中学校部会外国語小委員会委員長の高橋です。

今回、調査研究の対象となったのは、東書、開隆堂、三省堂、教出、光村、啓林館の6者、合計18点の教科書です。

外国語小委員会において、教育委員会が定めた令和3年度から使用する中学校用教科用図書の研究の基本方針に基づいて、公正・中立な立場から具体的な調査研究を進めてまいりましたので、報告いたします。

まず、調査研究の観点Aの採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明をいたします。

インデックスの採択参考資料外国語の外国語1ページをご覧ください。

外国語では、学習指導要領において、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり、伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を（1）から（3）のとおり育成することを目指すことが目標とされております。

外国語15ページの様式3をご覧ください。

生徒が興味関心をもって学習することができるよう、地域の実態を生かした指導が可能という観点から、様式3の調査項目②の北海道に関わりのある内容を取り上げているページについて説明いたします。

外国語18ページ及び19ページ、様式5をご覧ください。

様式4の調査項目②の北海道に関わりのある内容については、各者の特徴が見られました。

スクリーンをご覧ください。

教出「ONE WORLD」第1学年では、北海道での休暇が題材となっております。この中で、旭山動物園をはじめとした北海道に関わる写真とともに、旭山動物園が人気となった経緯についても本文中に記載されております。

続いて、啓林館の第3学年では、札幌で考案されたスープカレーの話題が写真とともに掲載されております。

続きまして、調査研究の観点Bの札幌市として設定する調査研究項目について説明いたします。

インデックスの外国語の外2ページをご覧ください。

外国語においては、調査研究項目として、計4項目について調査研究を実施いたしました。そのうち、2の(1)小中一貫した学習活動の取扱いと3の(1)の課題探究的な学習活動の取扱いについては、各者の特徴が見られたところです。

まず、2の(1)小中一貫した学習活動の取扱いについてです。

小学校の学習内容とのつながりを意識した構成の工夫により、生徒が小学校で身に付けた資質・能力を一層伸ばすことが可能かという観点において、その特徴についてご説明をいたします。

答申の外7ページ及び外8ページをご覧ください。

各者において、小学校で大切にしている音声になれ親しむこと、思いを伝え合う言語活動を踏まえ、特に、第1学年の前半の小学校との接続期には、聞くこと、話すことを中心とした活動が多く取り上げられております。

東書「NEW HORIZON」第1学年の13ページをご覧ください。

教科書下段には、文字と音の関係を取り扱う「S o u n d s a n d L e t t e r s」が設定されており、この欄には、教科書53ページの⑮まで継続して位置付けられております。接続期に十分な期間を充てて音の学習を取り入れることで、生徒が小学校で学んだことを生かして英語の学習を続けることができるよう工夫がされております。

また、同じく、東書第1学年の裏表紙にあります「CAN-DOリスト」をご覧ください。

ここでは、英語を使って何ができる力が身に付いたのかを示す「CAN-DOリスト」が掲載されております。小学校との学習のつながりが分かるように示されており、生徒が小学校での学びとのつながりを感じる事が可能な内容となっています。

「CAN-DOリスト」のようないわゆる学習到達目標を設定することについては、生徒が学んだことを自ら振り返り、そして、何ができるようになったかを確認する上で大変重要なツールとなるものです。各者の教科書の裏表紙や巻末にはそれぞれ掲載されているところです。

答申の外8ページをご覧ください。

次に、光村「Here We Go!」第1学年の30ページをご覧ください。

ここでは、登場人物のコミュニケーションの場面が把握しやすいように、漫画を用いております。この形式は、Unit1からUnit3まで続き、1年生が話の内容をより明確にイメージできるとともに、登場人物の気持ちを理解しな

がら、場面や状況に合わせた読み方等を身に付けることができるように配慮されています。

続いて、答申の外2ページをご覧ください。

調査研究項目3の(1)課題探究的な学習活動の取扱いについてです。

外国語における課題探究的な学習は、自分の思いや考えを適切に表現するために、英語を使ってどのように伝えるかについて、生徒自身が思考することが求められます。

その際、必要性や必然性を感じながら、目的に向けて情報を自ら整理し、場面や状況に応じて、聞く、読む、話す、書くの4技能を相互に関連付けた言葉による活動において、互いに理解したり、表現したり、伝え合ったりすることが重要となります。

この点の特徴についてご説明をいたします。

答申の外9ページをご覧ください。

開隆堂「SUNSHINE」第3学年の39ページにあります「Our Project」をご覧くださいいただければと思います。

ここでは、記者会見という場面が設定されております。生徒が会見役と記者役に分かれまして、原稿メモを見てスピーチをしたり、スピーチを聞いて取ったメモを基に即興的に質問をしたりする学習活動が位置付けられております。

メモに書いて、書いたことを話す、または、会見を聞いて、その中身について質問をするなど、聞く、書く、即興的に話すという複数の技能を統合的に活用する活動を通して、生徒自身が必然性を感じながら、自分の考えを整理し、学習活動を行うことが可能な内容となっています。

三省堂「NEW CROWN」2学年の118ページ、「Project 3」をご覧ください。

ここでは、ディスカッションをしようというテーマで、市民から寄せられた意見を読んでイベントのテーマを考えるという活動が設定されております。英語での話し合いを通して、考えを整理する学習が可能となっております。三省堂では、第3学年でも同様にディスカッションの学習活動が設定されております。

以上、外国語について説明をさせていただきました。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、ただいまのご説明に対しまして、ご質問などございましたらお願いいたします。

どうでしょうか。

○佐藤委員 聞く、読む、話す、書くの4技能と、紹介、発表、説明、それから

長文も含めて、各者の教材配置のバランスのよさという観点のご意見がもし小委員会であれば、お聞かせ願いたいと思います。特に、4技能のバランスというもので目立ったものがあつたかどうかについて伺えればと思います。

○外国語小委員会委員長 4技能をバランスよく配置するというのは、どの者においても特徴として見られる共通の項目であつたというふうに小委員会の中でも話題となつておりました。

言語の中で果たす機能が等しく扱われているといった点において、各者ともにそれぞれ同じようなバランスで扱われていると考えられます。

○佐藤委員 ありがとうございます。

このバランスのよさというのは、1学年に限らず、1年、2年、3年と年次が上がっていくにつれて、各者それぞれ少しずつ特徴があつたようにも拝見したのですけれども、学年のバランスということに関して、小委員会で何かご意見はありましたか。

○外国語小委員会委員長 その点におきましても、小委員会の中では、バランスそのものについての話題というより、各者ともに、それぞれ等しく配分がされているという点、それぞれの単元において、聞く、話す、読む、書くの活動が全ての項目においてバランスよく配置されていると判断しておりました。

○長谷川教育長 分かりました。ありがとうございます。

○阿部委員 それでは、2点ほどお伺いしたいと思います。

まず、小学校の外国語からの関わりということで、特に1学年になると思うのですけれども、導入が札幌の子どもたちに非常に分かりやすいものがありましたら教えていただきたいというのがまず1点です。

もう一点は、先ほど委員長のほうからご説明がありました開隆堂さんの3学年の39ページの「Our Project」についてお伺いしたいのですけれども、記者会見を開こうということで、シーンとしては非常に想像しやすい部分ではあるのですが、現在使われている開隆堂さんの教科書の中には、こういったシーンが私の見た感じではなかったと思ったときに、大人でもなかなか難しいシーンを中学校3年生でというのは、結構、ハードルの高い内容なのかなという感じの印象を私は個人的に受けたのです。

その点について、札幌の子どもたちにとってそんなにハードルが高くなく、むしろ、こういうことが必要だといったご意見が小委員会の中でありましたら、教

えていただきたいと思います。

以上、2点です。

○**外国語小委員会委員長** まず、小学校外国語活動からの接続という点に関しましては、ご質問いただいたことについては小委員会の中でも小中連携との観点と併せて大変話題となったところです。

各者とも、1年生の接続期には、聞くこと、話すことの活動を中心に設定するとともに、小学校で学んできた単語や表現などを中学校の中でも繰り返し、繰り返し学習させる工夫が見られたという点が、小委員会の中でも話題となっております。

中でも、先ほどもご説明しました東書では、「S o u n d s a n d L e t t e r s」を継続的に設定して、いわゆる音と文字との学習に時間を十分に充てているということ、それから、例えば、東書で言うと52ページ、三省堂で言うと18ページにありますけれども、ページごとに小学校で学んだ語をマークで示し、生徒が小学校で学習したということ意識しながら活動できるような工夫もされているということが小委員会の中では話題となっております。

また、書く活動につきましては、小学校でも取り入れることになりましてけれども、英語を書く活動の時期がこれまでよりも早まっているという中において、中学校は、小学校と違い、書き写したり例文を参考に書いたりすることだけではなくて、自分で表現を考えてさらに正確に書くということが求められるということで、このあたりについては、例えば、開隆堂の1年生の10ページでありますとか、教出の1年生の19ページ、または、光村の1年生の8ページなどでも扱われているといったところが特徴かというふうに考えているところであります。

それから、2点目の記者会見に関わる場所ですけれども、ご指摘のように、中学生の英語力という意味では、一言で言うと難しい部分はあるかもしれませんが。ただ、小委員会の中で話題になったのは、こういう力がこれからの英語教育の中では求められているのだ、このゴールに向かって子どもたちに適切な指導をし、そして、自分の考えを友達とのやり取りを通してさらに深め、その上で、友達と自分との意見を照らし合わせながら、自分の考えをより広げていったり、より思考を深めていったりすることを促していくということが求められているのだというような話題が小委員会の中ではあったところです。

○**阿部委員** ありがとうございます。

○**石井委員** 2点ほど質問させていただきます。

まず、1点目ですけれども、最近、教科書の重さによって子どもたちに負担が

かかるとよく言われていますが、東京書籍さんだけサイズがちょっと違って、大変見やすいのですけれども、その点について何か小委員会で話し合われたのかということです。

それから、今回は各者ともQRコードがついている教科書が多くて、各ページにあったり、要所要所にあたりするのですけれども、その点も小委員会で何か話し合われていたら教えてください。

**○外国語小委員会委員長** まず、教科書のサイズについては、小委員会でも話題になりました。ただ、調査項目に含まれていないということもございまして、深まった議論ということではございません。サイズが大きくなることで、情報量が豊富になって、細かい情報もたくさんあるというような話題にはなりましたけれども、調査項目以外ということもあり、小委員会では以上のような話題のみとなりました。

それから、QRコードに関しましては、各者それぞれ工夫があり、自学自習の取り組みに向けての工夫がされているなというふうな話題がありました。

また、者によっては動画を使っていたり、または静止画であったり、音声であったりということで、それぞれに特徴は見られましたけれども、工夫が見られる内容だったというふうに小委員会の中では話題となっております。

**○石井委員** ありがとうございます。

**○道尻委員** 私からもう一点ご質問させていただきます。

直接的には調査研究項目ではないかと思うのですけれども、学習した内容の振り返りですとか、あるいは、英語がちょっと苦手だなと思うような生徒さんが英語を身に付けるための工夫、そういったところで何か特徴的だというふうに話題に上がったものがありましたら、教えていただきたいと思います。

**○外国語小委員会委員長** 小学校との連携の部分とも深く関わるころかということで、小委員会の中でも幾つか話題にはなっております。

小学校で外国語を学んだ子どもたちは、外国語に対する関心、意欲は高まってきているという結果も出ておりますが、一方では苦手な子どももいるものと考えられます。

外国語学習では、英語が使われる場面、目的、状況の把握が大変助けになると言えます。また、活動を行うために練習をさせるということだけではなくて、最初はできなくて当たり前だというような前提に立って使用されている英単語や英語表現を繰り返し、繰り返し活動することで身に付けていくということが何よ

り大切です。

その点において、例えば、東書の「G l a m o u r f o r C o m m u n i c a t i o n」、ページで言いますと、1年生では26ページ、27ページ、28ページになりますが、学び方コーナーというものは、文法事項や学習方法が分かりやすく解説されていると話題となっております。また、練習問題もあり、生徒が自分のペースで理解を進めることが可能という意見も出ておりました。

また、教出の3年生の例で申し上げますと、76ページになりますが、「T i p s」というページがあります。それから、光村の1年生の例で言いますと26ページ、三省堂で言いますと68ページになりますが、光村では「英語の学び方ガイド」や「Y o u r C o a c h」という名称、三省堂におきましては「F o r S e l f - s t u d y」というような名称をつけながら、聞く、話す、読む、書くの四つの技能を身に付ける、活用するコツといたしますか、学び方のいわゆるヒントのようなものが掲載されていることも特徴として挙げられます。

また、開隆堂では、例えば3年生の64ページをご覧くださいますと、「S c e n e s」というページがあります。話の内容が漫画の形式になっているなどで、英語を読むことが苦手な子どもたちにとっても配慮があるなどの特徴が見られました。

○道尻委員 ありがとうございます。

○長谷川教育長 お願いいたします。

○佐藤委員 すみません、ちょっと追加ですけれども、小学校から4技能についてはトレーニングされているということで、引き続き、中学校もということですが、中学校の段階では、やっぱり文法の押さえというのも大事な要素になってくると思うのです。

先ほども触れていただいた東書の「G l a m o u r f o r C o m m u n i c a t i o n」ですとか、教出と啓林館も結構詳しいと思ったのですが、そうした文法の押さえということについて、小委員会でどういうご意見が出たかを教えていただければと思います。

○外国語小委員会委員長 まず、今ご指摘いただいたページにつきましては、小委員会の中でも、まとまりとか、子どもたちが自学自習する、それから、文法事項がよく整理されているという点については、各者ともに特徴があるという話題にはなっておりました。

ただ、いわゆる文法事項の整理のページをもって言語材料が全て身に付くと

ということではありませんで、あくまでも、通常の授業の中におきまして、言語活動を通して、コミュニケーション活動を通しながら、そういった文法事項を身に付けていくということが中心的な小委員会の中での話題でございました。

○佐藤委員 分かりました。ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにはいかがでしょうか。

一つお伺いしたいのですけれども、小学校のほうでも英語が教科ということで子どもたちが勉強しているのですけれども、その際に使用している教科書が東書ということです。

そういったことを考えますと、小学校で東書を使っていて、中学校から教科書が変わる、または同じになる、その影響というのはどういうふうにお考えでしょうか。

○外国語小委員会委員長 小委員会の中で、同じ教科書を使うことのメリットについての話題も出ておりました。接続期においては、構成上、編成上、同様であるということは、子どもたちにとって、いわゆる慣れの中で使いやすさはあるというような意見がある一方で、中学校は中学校として、身に付けるべき、育成すべき力を3年間を通して見つめていくというような意味合いのご意見もございましたので、接続期においては、子どもたちにとってはスムーズかもしれないのですけれども、全体を通して3年間の中で身に付けるべき力という視点で見えていきましようというような考えで、調査研究を進めているところです。

○長谷川教育長 その辺のところは、我々としても特に意識する必要は薄いといえますか、少ないということよろしいでしょうか。

○外国語小委員会委員長 中学校3年間で身に付けるべき力を大切にしながら考えていくことが大切だというふうに、委員会の中では話題となっております。

○長谷川教育長 分かりました。ありがとうございます。

それでは、もう一点、お伺いいたします。

調査研究の観点A、北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究及び調査研究の観点B、札幌市として設定する調査研究項目におきまして、特徴が顕著であった教科書についてお教えをいただければというふうに思います。その理由も併せてお伺いできればと思います。よろしくお願いします。

○外国語小委員会委員長 特徴が顕著な教科用図書は、東書、開隆堂の2者です。

理由といたしましては、東書は、小学校外国語との接続期である中学校1年生の前半に「S o u n d s a n d L e t t e r s」などを継続して配置するなど、英語の音の学習に十分な期間を充てているということ、また、巻末の「C A N - D O リスト」において小学校とのつながりが示され、小学校と中学校の外国語学習の円滑な移行に十分な配慮がなされているということが挙げられます。

また、開隆堂は、各学年で年間2回から3回配置されております「O u r P r o j e c t」において、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの四つの技能を関わらせながら発揮することができる課題が設定されております。特に、話すこと、やりとりの場면을効果的に配置するなど、課題探究的な学習によって学びを深める構成となっているということが理由として挙げられます。

2者ともに、札幌市で大切にしている小中一貫した教育、それから、課題探究的な学習の充実に向けた構成が見られます。

以上の点から、2者を挙げさせていただきます。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

今のお話ですと、東書については、「C A N - D O リスト」などにおいて小学校とのつながりが十分に示されていて、円滑な移行に配慮がなされているという点、開隆堂については、「O u r P r o j e c t」などにおいて、課題探究的な学習、そして学びを深める構成であったということです。

こういったご意見も含めまして、各委員からご意見ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

○阿部委員 委員会のほうで推薦していただきました考えと私も同じ意見です。

まず、1者目の東書さんにつきましては、小中一貫というところにおきまして他者と比較しますと、小学校からの円滑なつながりというところと、小学校の単語が分かりやすく表現されているというところに共感を覚えました。

開隆堂さんにつきましても、復習しやすいような小学校からの連携というところでは工夫をいただいているなという印象を持ちました。

また、課題探究という意味合いからは、先ほども質問させていただきました開隆堂さんの「O u r P r o j e c t」については少々の懸念もあつたのですが、特にこういう技能が必要だというご意見もありましたので、少々難しさを感じるところではありますけれども、そういったことが求められているということであれば、課題探究につながっていくのではないかなという考えを今のところは

もっていますので、この2者でというふうに思っております。

以上です。

○佐藤委員 先ほど質問したバランスということを中心に各者を見ていたのですけれども、お答えにあったように、もちろん、各者それぞれに4技能がバランスよく含まれているわけですが、優れているなという者が4者ほどありまして、4者を挙げるのもちょっとあれなので、やはり、そのうちの二つを選ぶとすれば、委員会がご提案された東書と開隆堂ということで私もよろしいのではないかなと思います。

1年生で会話中心にやっていて、2年生で読み書き、3年生だとそのプレゼンテーションというふうに、やはり、この2者はバランスが取れているのではないかなというふうに私の目にも映ったということで、私もこの2者で賛成いたします。

○道尻委員 私も、皆さんと同様に東書と開隆堂が検討対象とされるべきと思います。

やはり、小学校とのつながりという点、それから、学んだことの振り返りや、それを繰り返し続けるということが非常に丁寧に作られているのがこの二つの教科書ではないかという印象をもっております。

○石井委員 私も、皆さんと同様に東書さんと、皆さんとちょっと意見が分かれてしまうのですけれども、光村さんを残したいなというふうに思っています。

まず、東書さんは、皆様がおっしゃっているように、小学校からの接続という部分で非常に分かりやすいところがよいなと思いました。小学校で学んだことを今度は文法として理解していくということだったり、そういった円滑な移行が可能なのではないかなと思いました。

私が光村さんを残したい理由としては、教科書の構成が非常に見やすいなというふうに思ったからです。小学校からの移行という面でも、1年生のときは左のページに漫画が載っており、右側のほうに問いが載っていて、3年生になると英語の文章量が徐々に増えていくというところで、子どもの発達に合わせてくれているのかなというところと、3年間で一貫した登場人物が出てきていて、ストーリーになっていて、子どもが予習していくという面で興味が湧くのではないかなと思いました。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

せんだってでもご説明いたしましたけれども、本日は、1者に絞り込むということではなくて、数者を選定候補として取り上げるということで考えております。

ただいまの皆さんのご意見、小委員会委員長の意見を踏まえたと、東書、開隆堂、そして光村の3者が選定の候補として挙がっております。

引き続き、この3者についての審議を8月7日（金）に行いまして、1者に決定することによろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長谷川教育長 それでは、そのようにいたしたいと思います。

高橋委員長、どうもありがとうございました。

それでは次に、音楽一般と器楽合奏について審議を行います。

私から、小委員会委員長に確認をさせていただきます。

特定の組織や団体あるいは会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はないでしょうか。

○音楽小委員会委員長 ございません。

○長谷川教育長 それでは、委員長から、まず、音楽一般の調査研究報告（答申）の説明をお願いします。

○音楽小委員会委員長 中学校部会、音楽小委員会委員長の藤本です。よろしくお願いたします。

私から、まず、音楽一般についてご説明いたします。

今回、調査研究の対象となったのは、教出、教芸の2者、合計6点の教科書です。

音楽小委員会において、教育委員会が定めた令和3年度から使用する中学校用教科用図書の研究の基本方針に基づき、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりましたので、ご報告いたします。

まず、調査研究の観点Aである北海道教育委員会が作成いたしました採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

インデックスの採択参考資料音楽の音楽一般1ページをご覧ください。

音楽科では、学習指導要領において、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力をそこにあります（1）から（3）のとおり、育成することを目指すことが目標とされております。

次に、音楽一般2ページの様式2から音楽一般8ページの様式5までについてご説明いたします。

音楽一般 8 ページをご覧ください。

様式 5、様式 4 の調査項目にあります北海道と関わりのある内容を取り上げている箇所の数具体的な内容については、それぞれの発行者に特徴が見られました。

教出は、教出 2・3 上の 39 ページから 55 ページが映されていると思いますが、合計 10 か所の掲載があり、中でも、札幌の文化的環境である札幌コンサートホール Kitara のパイプオルガンの写真や札幌時計台の写真が掲載されるなど、札幌の情景を思い浮かべたり、関心を高めたりしながら学習することが可能な内容となっております。

教芸につきましては、アイヌ古式舞踊など 6 か所の記載がありました。

次に、調査研究の観点 B、札幌市として設定する調査研究項目について説明いたします。

インデックスの音楽の音 2 ページをご覧ください。

音楽一般では、調査研究項目として計 6 項目について調査研究を実施いたしましたが、そのうち、1 の (2) 国際性を育む学習活動の取扱い、3 の (1) 表現領域における課題探究的な学習の取扱い、3 の (2) 鑑賞領域における課題探究的な学習の取扱いについては、各者の特徴が見られました。

まず、1 の (2) 国際性を育む学習活動の取扱いについてご説明いたします。

この項目では、日本の伝統的な音楽や諸外国の音楽文化に触れ、音楽の多様性を理解する学習活動が可能な内容となっているかという観点で調査研究を行いました。

答申の音 4 ページをご覧ください。

教科書のほうは、教出 2・3 下の 44 ページ、教芸 2・3 上の 60 ページをご覧ください。

まず、教出からご説明いたします。

全学年に掲載されています「L e t ' s T r y !」のうち、長唄「勸進帳」についてご説明いたします。

教出の長唄「勸進帳」をうたおうでは、唄と口三味線の唱歌との関わりが分かる縦書きの楽譜を活用した演奏体験を通して、日本的な音の動きや間を感じながら、実感をもって伝統音楽のよさを味わうことが可能な内容となっております。

続いて、教芸では、日本の伝統的な歌唱の教材が 3 年間を通して配列されておりますが、その中でも、長唄「勸進帳」についてご説明いたします。

長唄「勸進帳」からでは、図譜で旋律の流れが示されるとともに、演奏者からのアドバイスにより、声の出し方を理解しながら歌うことができる構成となっております。

答申の音2ページにお戻りください。

3の(1)表現領域における課題探究的な学習の取扱いについてご説明いたします。

音楽科の表現領域における課題探究的な学習は、曲想と音楽の構造を関わらせていくことが大変重要となります。関わらせた結果、どのように歌手が歌いたいかという思いや意図をもち、音楽表現を高める学習活動が可能な内容となっているかという観点で調査研究を行いました。

次に、答申の音6ページをご覧ください。

また、教科書は、教出1年生6ページをご覧ください。

「青空へのぼろう」では、「Active!」の印がつけられています。

この「Active!」は、学び合いを深めるページとして、年間で歌唱、創作、鑑賞の三つの教材が3年間で九つ位置づけられています。

6ページから7ページで示された歌詞と楽譜が、8ページで曲の構成が理解しやすいよう、再度、縦長に示されるとともに、書き込むことができる表が掲載されていることで、課題を追究していくことができる構成となっております。また、キャラクターからのアドバイスにより、どのように歌ったらよいか、思いや意図をもって表現を工夫することが可能となっております。

続いて、教芸1年36ページをご覧ください。

「Let's search for Tomorrow」では、「深めよう!音楽」のページが付属しており、注目するポイントや調べ方の例を参考にしながら、音楽の特徴を理解し、どのように歌いたいかという思いや意図をもち、歌唱表現を追究することが可能になっています。

なお、この「深めよう!音楽」のページは、3年間で歌唱と鑑賞の九つの教材に設けられています。

答申の音2ページにお戻りください。

3の(2)鑑賞領域における課題探究的な学習の取扱いについてご説明いたします。

音楽科の鑑賞領域における課題探究的な学習とは、先ほど、表現領域における課題探究的な学習についてお話ししたように、曲想と音楽の構造を関わらせながら、音楽のよさや美しさを味わうこととなります。

ここでは、それが可能な内容になっているかどうかという観点で調査研究を行いました。

答申の音7をご覧ください。

また、教出1年43ページを併せてご覧ください。

鑑賞曲「春」では、「春」で学習したことを基盤とし、「秋」が比較鑑賞曲として掲載されており、聴き比べることで共通点やそれぞれの楽曲のよさを見出す

ことができ、さらに、交流することで学びを深めることができる構成となっております。

続いて、教芸1年44ページをお開きください。

鑑賞曲「春」では、先ほどの「深めよう！音楽」のコーナーが併せて掲載されており、聴き取ったこと、例えば、旋律の特徴や強弱などですが、それと感じ取ったことを教科書に書き込むなどとして、聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせながら聴くことで、どのようなところによさを感じたかを明らかにしながら学習を進めていくことができる構成となっております。

加えて、教出1年60ページをご覧ください。

このページのように、全学年を通して「何が同じで何が違う？」というコーナーが掲載されており、日本の伝統的な音楽と諸外国の様々な音楽を比べて鑑賞することなどを通して、生徒の興味関心や疑問から課題を発見し、追及することが可能な内容となっております。

以上、音楽一般についてご説明させていただきました。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、ご質問などございましたらお願いいたします。

○石井委員 1点、質問させていただきます。

鑑賞領域における学習の扱いの部分で、音楽を鑑賞する際に、その音楽の背景にある歴史や文化を理解することも大切だと思うのですが、生徒がより興味をもって主体的に学んでいくためには、自分の日常生活だったり、社会の音楽とのつながりが感じられると、生徒自らがより主体的に学びに向かうかなと思うのですが、そういった点で両者に何か特徴があれば、教えてください。

○音楽小委員会委員長 調査研究項目の中では特にその設定はございませんでしたが、今ご指摘のあった自分たちの生活や身近な文化との関わりが両者とも教科書の内容に掲載されているということでは、特徴があったと思っております。

○石井委員 分かりました。ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

○阿部委員 2点ほどお伺いしたいと思います。

まず、国際性というところでお伺いしたかったのですが、日本の伝統音

楽に触れることは非常に重要な要素だという認識があるのですが、世界の音楽に触れるという視点に立ったときに、両者の違いなどがありましたら教えていただきたいというのがまず一点です。

もう一つは、先ほど、最後に教出のほうで「何が同じで何が違う？」というのをご説明いただいて、比較鑑賞ということだと思っておりますが、それに対して、教芸のほうではどういう特徴があるのか、同じように比較鑑賞なのか、あるいは、そうではなくて、鑑賞の仕方に特徴があるのかという点を教えていただければと思います。

**○音楽小委員会委員長** まず、1点目の世界の音楽についてですけれども、先ほど見ていただきました音4ページの札幌市の調査研究項目の(1)国際性を育む学習活動の取扱いの中で、例えば教出でありますと、下の三つの視点が世界の音楽の調査研究内容となっています。

例えば、日本とアジアの声による様々な表現、日本とアジアをつなぐ音、物語を表現するアジアの芸能や音楽等で、日本とアジアの人々の暮らしを基盤にしたり、外国語の歌が載っていたり、外国語のポピュラー音楽が紹介されていたり、そんなような内容が教出もありますし、教芸にもそのようなページが設定されているところが両者の特徴なのかなと思っております。

それから、2点目の比較鑑賞の点ですけれども、教出のほうは先ほどのようなコーナーを設定しておりましたけれども、教芸のほうも、様々な教材とつなぎながら表現をしたり、表現活動をしたり、鑑賞活動をしたり、そのような活動が可能な内容のページになっております。

**○長谷川教育長** ありがとうございます。  
お願いします。

**○道尻委員** 私から、質問させていただきます。

調査研究項目の中にあります北海道と関わりのある内容について取り上げている部分ですけれども、例えば、ソーラン節などは両者で取り上げられているわけですが、その取り上げ方とか、視点とか、そういったところで特徴に何か違いのようなものがあって、そのことが話題になっているようでしたら教えていただきたいと思っております。

**○音楽小委員会委員長** こちらも、先ほどの札幌市の調査研究項目の音3をご参考にしていただければというふうに思いますが、ソーラン節については、教出では、歌の解説であるとか、ニシン漁の写真なども掲載されていて、子どもたち

が作業の様子や当時の人々の暮らしを思い浮かべながら学習することが可能になっていると思っております。

それから、教芸も、曲の由来ですとか、同じようにニシン漁の写真から、当時の作業の様子や人々の暮らしを思い浮かべながら学習することが可能なのかなと思っております。

○道尻委員 ありがとうございます。

そういったところから課題を見出して、考えを深めていく、そういったところに関しては何か特徴があるでしょうか。

○音楽小委員会委員長 両者ともに、このように自分の身近にある民謡を歌いながら、場合によっては鑑賞活動につないでいくような学習活動が札幌市内でも多く見受けられますので、それについても両者の特徴なのかと思えます。

○道尻委員 分かりました。ありがとうございます。

○長谷川教育長 それでは、音楽一般につきましては、対象となる教科書が教出と教芸の2者ということです。この2者とも選定の候補として、8月7日(金)に引き続き審議を行って1者を決定するというところでよろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、次に、器楽合奏の調査研究報告(答申)のご説明をお願いいたします。

○音楽小委員会委員長 続きまして、器楽合奏についてご説明いたします。

今回、調査研究の対象となったのは、教出、教芸の2者、計2点の教科書です。

まず、調査研究の観点Aである採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

教科の目標等については、音楽一般で説明したとおりとなっております。

初めに、器楽合奏2の様式2から器楽合奏6ページの様式5までについてです。

器楽合奏5ページをご覧ください。

この中では、様式4の③和楽器を扱う箇所数の具体的な内容について、各者の

特徴が見られました。

札幌市においては、多くの中学校で箏を用いた授業を行っておりますので、和楽器の中でも、特に箏についてご説明いたします。

教出では、63曲のうち、箏の独奏曲が4曲、2重奏曲が4曲の計8曲、教芸では、41曲のうち、箏の独奏曲が6曲掲載されております。

次に、調査研究の観点B、札幌市として設定する調査研究項目について説明いたします。

答申の音9ページをご覧ください。

器楽合奏においては、調査研究項目として計5項目について調査研究を実施いたしました。3の(1)基礎的な技能に関する取扱い、3の(2)教具や演奏形態に関する取扱いのそれぞれについて各教科書の特徴が見られましたので、ご説明させていただきます。

まず、3の(1)基礎的な技能に関する取扱いについてご説明いたします。

基礎的な表現の技能を身に付けるため、写真や図が効果的に示されているかという観点で調査研究を行いました。

答申の音12ページをご覧ください。

あわせて、教出38ページをご覧ください。

箏のページでは、左下の写真のように、親指による基本的な奏法などが分かりやすい角度からの写真で解説されており、生徒自身が模倣しながら基礎的な技能を身に付けることが可能となっています。

教芸44ページをご覧ください。

縦書きの楽譜を用いた平易な練習曲が掲載されており、同じページにある演奏のポイントを参考にしながら取り組むことが可能となっております。また、47ページのように、かき爪、割り爪などの様々な奏法をまとめて掲載したりするなど、紙面構成を工夫し、基礎的な技能を身に付けることが可能な内容となっています。

また、同じく、教芸23ページをご覧ください。

リコーダーのページですけれども、奏法に関するアドバイスが、適宜、Q&Aの形式で掲載されており、音域による息づかいの違いなどの疑問を解決しながら学びを進め、技能を身に付けることが可能な内容となっています。

答申の音9ページにお戻りください。

3の(2)教具や演奏形態に関する取扱いについてご説明いたします。

様々な演奏形態を選択することで、学ぶ意欲を高めることが可能かという観点で調査研究を行いました。

答申の音13ページをご覧ください。

あわせて、教出60ページをお開きください。

ここからスタートする「L e t ' s P l a y !」、それから、72ページからスタートする「L e t ' s T r y !」では、小学校で学習した楽曲や中学校で学習する楽曲などなじみのある楽曲や歌唱の学習と関連付けることができる楽曲が、リコーダーアンサンブルや日本の伝統楽器による独創や合奏など多様な演奏形態の楽曲として豊富に掲載されております。

続きまして、教芸10ページをご覧ください。

ここからの「アンサンブルセミナー」、それから、同じ76ページからの「アンサンブル」では、リコーダーや日本の伝統楽器、ギター、ボディーパーカッション、ラテン打楽器などで演奏する様々なジャンルのアンサンブル曲が掲載され、多様な演奏形態が選択でき、学ぶ意欲を高めることが可能な内容となっております。

以上、器楽合奏についてご報告申し上げます。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、ご質問などございましたらお願いいたします。

○佐藤委員 先ほど、札幌市の中学校においては、和楽器のうち、箏を用いた学習が中心になっているということでしたけれども、箏は、リコーダーのように全員分あるというわけではないと思うので、参考までに、札幌市の中学校において箏をどういうふうに運用しているのかを伺いたいというのが一つです。

それから、教科書においては、三味線、篠笛、尺八といったようなほかの和楽器も掲載されているわけですが、その部分の授業における取扱いというのはどのようにされているのか、お聞かせいただければと思います。

○音楽小委員会委員長 札幌市の現状として、まず、箏についてですが、全部で400面以上の箏を全市の小・中学校に整備しております。整備の方法については、各区で拠点校を設けて、そこに何面かずつ置いて、それを各区で利用しているという形になっておりますので、多くの生徒が箏を演奏することが可能であると考えております。

それから、ほかの和楽器とのつながりですが、教出、教芸ともに、例えば、鑑賞とのつながりですとか、先ほどの長唄を実際に歌ってみて、三味線とのつながりとか、そういった形で様々な活動とつなげることによって、この器楽の教科書を活用することがそれぞれ可能な内容となっているのかなと思っております。

○佐藤委員 現状において、実際には楽器がないけれども、CDを聴かせたり、

授業の中でそれぞれをどう取り上げているのかというようなことを聞いたかったのですけれども、いかがでしょう。

○音楽小委員会委員長 和楽器については、学校や地域の実態に応じたものを選択いたしますので、すべての和楽器を用いて学ぶということではありません。札幌市においては箏を中心に用いており、尺八は篠笛などについては、器楽の教材として扱われている実態は多くありません。

○佐藤委員 分かりました。ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにはいかがでしょうか。

○道尻委員 先ほどのご説明の中でも触れられていたのですが、箏の演奏に関する記述の部分で、二つの者において、当然、見比べると記載の仕方が違っているところがあるわけですが、これについて、どちらが生徒にとって分かりやすいかとか、教える側にとって教えやすいか、そういったようなことが小委員会の中で挙げられていたら、教えていただきたいと思います。

○音楽小委員会委員長 例えば、教出では、先ほどもお話ししましたが、生徒にとって理解しやすいアングルや見やすい大きさでの写真が掲載されていますことで、指導者としてもその写真を生かした指導が可能なのかなという話が出ました。

一方、教芸では、演奏のポイントが丁寧に掲載されておりますので、思うように弾くことができない生徒にとって、改善点を見付けながら主体的に技能の向上を目指すことが可能になっているというような話題が調査委員会の中では出ておりました。

○道尻委員 ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかはどうでしょうか。

○石井委員 1点質問したいのですが、両者の教科書を比べたときに、例えば、ギターの紹介なんかで、教芸さんはいろいろなギターの種類を載せていたり、リコーダーもいろいろな種類を載せているのですが、そういった点において、同じ楽器でもいろいろな種類があるということを教科書で提示することによって、子どもたちにとって何かよい効果みたいなものがあるかどうか、教

えてください。

○音楽小委員会委員長 それぞれの楽器を用いて学習を進める上で、最初の導入段階で楽器の多様な種類を示すことによって、子どもたちが興味関心をもって演奏に取り組むことができるというのがまず1点です。

それから、子どもによっては、そういったいろいろな楽器にもさらに発展的に興味をもって、やってみたいと思う子が出てくる可能性もあるのかなと考えております。

○石井委員 ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにいかがですか。

1点お伺いしたいのですが、先ほどの音楽一般もそうですけれども、教出、教芸の2者ということです。

例えば、音楽一般が教出で器楽のほうが教芸というふうに異なっても全然問題ないのか、それとも、やっぱりある程度の親和性といいますか、そういったものがあつたほうがよいのか、その辺のところをお聞かせいただけますか。

○音楽小委員会委員長 取り扱っている内容や楽曲については、それぞれの発行者がそれぞれの特徴をもって取り扱っておりますけれども、違った者になっても授業では大きな支障はないと考えております。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、こちらにつきましても教出と教芸の2者ということです。8月7日(金)に引き続き審議を行って、それぞれ1者を決定するというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

藤本委員長、どうもありがとうございました。

それでは次に、道徳について審議を行います。

私から、小委員会委員長に確認をさせていただきます。

特定の組織や団体あるいは会社等から働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたでしょうか。

○**道徳小委員会委員長** ございません。

○**長谷川教育長** それでは、委員長から調査研究報告（答申）のご説明をお願いいたします。

○**道徳小委員会委員長** 中学校部会、特別の教科道徳小委員会委員長の小村です。

今回、調査研究の対象となったのは、東書、教出、光村、日文、学研、廣あかつき、日科の7者、計21点の教科書であります。

これらの教科用図書について、教育委員会が定めた令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査研究の基本方針に基づき、特別の教科道徳小委員会において、公正・中立な立場から具体的な調査研究を進めてまいりました。

まず、調査研究の観点Aである北海道教育委員会が作成しました採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

インデックスの採択参考資料道徳の道徳1ページをご覧ください。

この様式1の教科の目標をご覧ください。

新学習指導要領では、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが目標とされております。

次に、道徳2ページをご覧ください。

ここから道徳19ページまで調査研究結果が示されております。

この中では、様式2の取扱い内容、内容の構成、配列について、各者の偶数ページ一番下の体験的な学習について、特に各教科書の特徴が見られました。

道徳科においては、動作化や役割演技などの体験的な学習を取り入れることで、自分自身の問題として深く関わり、ねらいの根底にある道徳的価値、例えば、思いやりの心をもって人と接することについて、実感をもって考えを深めていくことが可能であると考えます。

この項目においては、特に東書と教出に特徴が見られました。

スクリーンも併せてご覧ください。

東書では、このように体験的な学習を扱う特設ページ「ACTION!」という見開きページが各学年に2教材ずつ掲載されております。直前の教材文にあ

る一場面について、役割演技を行う活動となっております。

次に、道徳4 ページの一番下をご覧ください。

教出では、特設ページ「やってみよう」が各学年に掲載されております。こちらにも、直前の教材文に出てくる登場人物について、役割演技を行う活動となっております。

次に、調査研究の観点B、札幌市として設定する調査研究項目について説明いたします。

インデックスの道徳の道3 ページをご覧ください。

特別の教科道徳においては、調査研究項目として六つの具体項目について調査研究を行いました。そのうち、3の(1)課題探究的な学習活動の取扱いと4の(1)自分や他者の生命を尊重する心を育む学習活動の取扱いについては、各教科書の特徴が見られましたので、ご説明させていただきます。

まず、3の(1)課題探究的な学習活動の取扱いについてです。

この項目では、道徳的価値に関わる様々な課題について考えを出し合う、まとめる、比較するなどの話し合い活動等を通して、物事を広い視野から多面的・多角的に考えるとともに、道徳的価値と自分との関わりについて考えを深める学習活動が可能な内容となっているかという観点で調査研究を行いました。

答申は道7 ページ、教科書は、東書第3学年の140ページをご覧ください。

東書では、教材の初めに、本時の学習テーマと学習テーマに対する投げかけ、関連した一コマ漫画が掲載されており、どのような学習をするのかについて見通しをもって学習に取り組むことができるよう工夫されております。

また、教材文の後ろの問いが道徳的価値の理解を深める問いと自分との関わりで考えを深める問いの二つに整理されており、ねらいとする道徳的価値について十分に議論することが可能な構成となっております。

次に、光村の第3学年の100ページをご覧ください。

光村では、教材の初めには、内容項目を示すとともに、教材文後の「考えよう」では、学習テーマを示した上で、道徳的な問題を明らかにする問い、道徳的な価値の理解を深める問いが掲載されております。また、「見方を変えて」「つながよう」など切り口を変えた問いや日常生活との関連を図る問いも併せて掲載されており、生徒がねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えを深めることが可能な構成となっております。

答申は道8 ページ、教科書は、学研の第2学年の128ページをご覧ください。

学研では、教材の最初には教材名と教材文の一部抜粋であるキーフレーズが示され、テーマはあえて記載せず、生徒自ら課題を発見していく構成となっております。

このように、教材の冒頭部分の取り扱いや教材後の問いについて、各者には特

徴がございました。

答申の道3ページにお戻りください。

次に、4の(1)自分や他者の生命を尊重する心を育む学習活動の取扱いについてご説明いたします。

この項目では、いじめの問題など生死や生き方に関わる学習活動を通して、自己を肯定的に受け止め、他者を思いやる心と、自分や他者のかけがえのない生命を尊重する態度を育むことが可能な内容となっているかを調査研究いたしました。

答申の道11ページをご覧ください。

この項目の特徴といたしましては、複数教材やコラムなど、異なる教材を一つにまとめて学習するユニットを構成していることなどが挙げられます。

東書と教出は、いじめの問題と生命尊重とともにユニットを構成し、光村と日文については、いじめの問題のみユニットを組んだ構成となっております。

ここでは、各者の特徴につきまして、目次を比較してご説明いたします。

東書の第1学年の目次をご覧ください。

東書では、いじめの問題、生命尊重について、3教材を一つのまとまりとして配置しております。目次では、色をつけてユニットであることを示しております。

また、第1学年の21ページをご覧ください。

ユニットの扉に3教材を並べて表示することで、一まとまりとして学習することをより意識させる構成となっております。

次に、教出の第2学年の目次をご覧ください。

教出では、いじめの問題については複数教材とコラムが、生命尊重については3教材が一つのまとまりとして配置されております。目次でもこのようにそれぞれに色が付けられております。

続きまして、光村の第1学年の目次をご覧ください。

光村では、いじめの問題に関する複数教材と「深めたいむ」を一つのまとまりとして配置しております。教材番号6番と7番がこれに当たります。

答申は道12ページ、教科書は、日文の第2学年の目次をご覧ください。

日文も、いじめの問題に関する複数教材とコラムが一つのまとまりとされ、第2学年においては1年間で2回配置しています。

また、28ページをご覧ください。

こちらのよう、ユニットの扉には1年間で学習する教材が示されております。

学研の第1学年の目次をご覧ください。

学研については、ユニットは構成せず、いじめの問題及び生命尊重について年

間を通して全学年に複数掲載しています。生命に関わる内容の教材については、命のマークが掲載されております。

次に、廣あかつきの第1学年の目次をご覧ください。

廣あかつきについては、ユニットは構成せず、いじめの問題及び生命尊重について年間を通して全学年に掲載されております。また、別冊道徳ノートに補助資料が掲載されており、必要に応じて活用できる構成となっております。

日科の第1学年の目次をご覧ください。

日科についても、ユニットの構成はせず、いじめの問題及び生命尊重について年間を通して全学年に掲載されております。教材は、学習指導要領の内容の項目順に配置されており、各学校の特色や方針によって自由に各教材を配置することが可能な構成となっております。

以上で、特別の教科道徳についての調査研究報告を終わります。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、各委員からご質問などがございましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

先ほど、「足袋の季節」を比較して各教科書の特徴などのご説明をいただきましたし、例えば「二通の手紙」も多くの者の教科書で取り上げておられるかと思えます。最初に、表題のほかにテーマやねらい等がある程度書き込まれている教科書と、全く書いていない教科書もありますけれども、例えば教える立場として、使いやすさというところではどういったものがよいのかと伺いますか、使いやすいのかというようなお話というのは、小委員会の方では出ましたでしょうか。

○道徳小委員会委員長 課題探究的な学習を考えたときにどちらのほうが良いのかということで、小委員会でも話題になっております。

実は、テーマが示されずに子どもたちが課題を見つけていくというのも必要な過程になるのですが、ご存じのとおり、年間に35時間しか道徳の時間はなく、50分の間に課題探究的な学習を展開していくことを考えた場合、最初の段階で課題がある程度短時間に確認できたほうが議論を深めることができるのではないのかというような話が上がってきております。

そういう意味で、課題が明確に捉えられたほうが事業の深まりが期待できる、それから、話し合いの時間が確保できるというようなところは我々も検討してきております。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。  
お願いいたします。

○石井委員 1点質問なのですが、各者共通の内容として、「足袋の季節」という物語があると思うのですが、ちょっと細かいところになるのですが、この中で教育出版さんだけが主人公のお父さんの部分が、「私の父は自由労働者で」というふうに書かれていて、他者さんではまた違った表現で、「たまにしかなく」だったり、「日雇いの労働者」というふうに書かれています。私は、恐らく子どもたちが読み進みやすいように配慮して変えたのかなと思っていて、そういった点ではばらつきがありますが、恐らく教育出版さんが原文なのかなと思ったのです。そういった読みやすいように直されているような文章でも教材としては問題ないのでしょうか。

○道徳小委員会委員長 問題がなかろうというふうに考えております。

実は、教育出版のみが変わっているということではなくて、大きくは二つになるのです。冒頭の部分が編集されていて、出だしが、それこそ足袋の季節ということに絡めて、その表現からスタートすることに編集されている発行者とそうでない発行者に大きく2者に分かれていますし、今ご指摘があったとおり、細かい内容の差異もあつたりします。それから、注釈が多い少ないとか、そういったところは、各者でいろいろな特徴があるように思います。ただ、実際に授業を進行する意味からすると、このあたりの違いというのは大きな差異にはならないであろうと。

それよりも、先ほどの質問に答えたとおり、教科書の教材よりも全体の構成の方が授業に大きく影響してくるであろうと我々としては受けとめています。

○石井委員 分かりました。ありがとうございます。

○阿部委員 道徳の場合は、目的の中にもあります道徳的価値ということで、他者への思いやり等ということで冒頭にご説明をいただきました。そういう意味では、各題材における議論ということで、議論が深まっていくかということ、私としては非常に重要であり、多様な考え、他者の考えをどう自分の中で受け入れられるかというような深まりというのは、道徳の中では重要なポイントであるというふうに思うのです。そういう意味で、議論の深まりという角度から考えたときに、特徴のある教科書がありましたら教えていただきたいというのがまず1点目です。

同時に、これも目的の中に書かれているのですが、多面的・多角的とい

う視点は道徳においても重要なことと思うのですが、そういう意味においても、特徴的な発行者がありましたら教えていただきたいと思います。

**○道徳小委員会委員長** 1点目の考え、議論する道徳のことを指していらっしゃるのだと思いますが、その件については、当然、小委員会のほうでも話題になっております。

考え、議論する道徳の実現に向けた各者の特徴としては、やはり教材文の構成の工夫が実際に影響してくるであろうというふうに考えています。

道徳的価値の理解を深める問い、自分との関わりとして考えを深める問い等が各者とも掲載されていますが、例えば東書の3年生の142ページ、それから、日文の2年生の171ページは出ますでしょうか。

この2者については、問いが道徳的価値の理解を深めるものと、自分との関わりについて考える問いの二つに精選されているわけです。このように理論の観点が明確になっていることによって十分に時間を取って他者と議論することが可能なのではないかと、このように小委員会のほうでは検討しています。

それから、これとは違う構成になりますけれども、光村の3年生の103ページです。

これについては、テーマが設定され、思考の筋道に従って議論を深めることが可能となっているほか、視点を変えた問いかけがありますので、多面的・多角的というような広がりがあると考えられるであろうというふうに考えています。

2点目の質問がそれこそ多面的・多角的というところだったと思うのですが、これについては、各者とも非常にコラム等が工夫されていて、広がりがあるように工夫されておりました。

その線で行きますと、光村の1年生の33ページです。

先ほどの説明と重なりますけれども、「見方を変えて」は、多面的・多角的な見方や考え方ができるよう切り口を変えた問いを設定しております。また、学研の2年生の131ページでしょうか。「クローズアップ」、「クローズアッププラス」というように、教材とは異なる視点や関連情報が掲載されていることで多面的・多角的に考えることが可能な構成となっていて、非常に広がりがある教科書という特徴があります。

ただ、小委員会で話題になったのは、こういう広がりがあるものというのとはなごりながら広がっていくという点ではよさがあるのですが、それこそ先ほど申し上げた50分間が年間に35時間しかない道徳の時間で、道徳的価値からぶれてしまうおそれもあるわけです。

取り扱う場合には、授業者がねらいをしっかりと意識して進める必要があると考えられます。

以上です。

○阿部委員 ありがとうございます。

○道尻委員 今のご説明とも関連すると思うのですが、限られた時間の中で生徒それぞれが考えて、自分の考えを述べ、さらに議論をするというような授業を実現するという観点からしますと、そういった授業を進める上で、教科書がうまく作られているというような特徴が見られるものがもしあれば教えていただきたいと思います。

○道徳小委員会委員長 先ほどの課題探究的な学習、それから、考え、議論する道徳と重なる部分があるかというふうに思います。

問いが厳選されていると授業が焦点化されやすく、授業において議論も深まる展開となるということが一つ考えられます。もう一つは、ねらいがぶれてはいけないのだけれども、次へのつながりがある部分、こういったところも必要な要素であろうかというふうに思っております。

そう考えますと、前者から考えますと、東書、日文、それから、後者の観点から考えますと光村、このあたりが今のご質問に合う内容ではないかというふうに考えております。

以上です。

○道尻委員 分かりました。ありがとうございます。

○佐藤委員 続けて、私もちよっと関連することについてお伺いしたいと思います。

授業の実態として、各教材文の最後についている先ほどご紹介いただいた発問というのをどのように先生方はお使いになるのかということなのです。つまり、教材文についている教科書の発問を利用されるのか、それとも、そこから捨選択されるのか、それとも、教科書に掲載されている発問はとりあえず置いて、先生がご自身で考えた発問というものを発することが多いのか、配分といってもなかなかお答えづらいとは思いますが、授業の実態としてはどういうケースが多いのか、教えていただければと思います。

○道徳小委員会委員長 今現在使っているのは東書になります。こちらのほうは、今現在は教科書の終わりのほうに二つから三つになっている場合もありますけれども、その問いが位置付けられています。その中で中心的な問いになるであ

ろうものに向けて、補助的な発問を重ねて行ってそこへ運んでいくということをします。それで、子どもたちが中心的な課題をつかみ、それについて、その後、議論を深めていくという形態が一番多いというふうに思われます。

教科書について、指導書もそういう内容を伴っておりますので、こちらを参考に進めているケースが多かろうというふうに考えます。

○佐藤委員 そうすると、教科書に書いてある発問を中心に進んでいくと。

○道徳小委員会委員長 そうです。

○佐藤委員 分かりました。

○長谷川教育長 よろしいですか。

ほかにはいかがでしょうか。

○阿部委員 すみません。追加してもよろしいでしょうか。

今の佐藤委員の質問と少し関連するのですがけれども、道徳の授業に慣れていらっしゃる先生とそうではない先生といらっしゃるのかなというふうに推測します。そういった場合に、今、委員長からご説明があったように、時間との兼ね合いもあると思うので、限られた中で進めていかななくてはいけないというのは非常に分かる点ではあるのですがけれども、ベテランの先生からすると、発問数がちょっと物足りなかったり、逆に、不慣れな先生からすると発問数があったほうが議論が深まるですとか、そういったことはないのでしょうか。

○道徳小委員会委員長 一概にはそのようには言えないのではないかなというふうに思っています。道徳が教科化して、今年で2年目を迎えているわけなのですがけれども、札教研でも研究部を小・中に分けて立てて、昨年初めてできたときには非常に多くの先生方が参加されました。各校でも、担任の先生だけが授業をするのではなくて、副担任の先生も入って授業を回していくローテーション道徳であるとか、それから、評価にしても、担任の先生が最終的にはまとめていくのですがけれども、いろいろな目を見たものを積み上げて行って評価につなげていくとか、授業の姿をお互いに職員室で交流することができるかというような経験を積み上げてきました。

今年は、札教研の道徳には、昨年ほど人数が集まらなかったのですが、これは現場で教科としての道徳の指導が定着してきたと受け取れると思うのです。

そういう意味合いでは、今、ご心配されていた経験の浅い、深いというところ

も大きな問題ではないと考えているところです。

○阿部委員 ありがとうございます。

○長谷川教育長 よろしいですか。

それでは、私からご質問したいと思います。

若干、これまでの質問と重複するところもありますけれども、調査研究の観点A、北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究及び調査研究の観点B、札幌市として設定する調査研究項目において特徴が顕著であった教科書についてお伺いをしたいと思います。

あわせて、その理由もお伺いできればというふうに思います。

○道徳小委員会委員長 特徴が顕著な教科用図書は、東書、光村の2者です。

理由といたしましては、東書は、教材文の冒頭に学習テーマとテーマに対する投げかけ、登場人物などが示され、見通しをもって読み進めることが可能な構成となるよう工夫されていることや、教材文の後ろの問いが、道徳的価値の理解を深める問いと、自分との関わりで考えを深める問いの二つに整理され、考え、議論する道徳が実現しやすいという特徴が見られました。また、いじめの問題及び生命尊重について、三つの教材を通して学習するユニットが構成されており、多面的・多角的に考えることができるよう工夫されていることも挙げられます。

光村は、教材文の冒頭に本時の大枠のねらいとなる道徳的価値が示されるとともに、教材文の後ろの「考えよう」では、道徳的価値の理解を深める問いが二つに整理され、考え、議論する道徳が実現しやすいという特徴が見られました。「見方を変えて」「つなげよう」など、切り口を変えた問いや日常生活の関連を図る問いも併せて掲載されており、生徒がねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えを深めることが可能な構成となっていることも挙げられます。2者とも、札幌市で大切にしている課題探究的な学習の充実に向けた構成が見られます。

以上の点から2者を挙げさせていただきます。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ただいま、委員長からのご意見では、東書は、見通しをもって読み進めることが可能な構成となるよう工夫をされているということ、考え、議論する道徳が実現しやすいということでもございました。併せて、多面的・多角的に考えたりすることができるよう工夫がされているということでもございました。

一方、光村のほうは、考え、議論する道徳が実現しやすいという特徴が見られ

たということ、そして、生徒がねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えを深めたりすることが可能な構成になっているということでございました。

このことも含めまして、各委員からご意見、併せてご質問などがございましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

○佐藤委員 今、ご提案がありましたように、私も、光村がまず上げられるかなと思います。それは、先ほどお伺いした発問の部分で、やはり「見方を変えて」というところが特徴的だなというふうに思ったからです。先ほどのお答えの中に、先生方は教科書の発問を中心に授業を構成されるということですので、この視点は重要だと思います。

発問ということからすると、もう1者、私は学研を推したいと思います。これは、先ほどのご紹介に出てきたように、「クローズアップ」の部分少し広がり過ぎていて拡散的になる可能性がある。「クローズアップ」と「クローズアッププラス」が確かにほぼ各教材後に必ず入っている形、必ずというわけではなく、相当たくさん一枠に入っているのですが、これとは別に「深めよう」という発問があるのですよね。「深めよう」については、一学年で五つから六つくらいの「深めよう」というのが非常に発問として私は特徴的で優れているなというふうに思いましたので、ぜひ学研も残して検討することができればよいなというふうに考えています。

○道尻委員 私なりの観点として、見通しをもって学習に臨むことができるというのは、道徳という科目では大切なのかなというふうに思います。あと、役割演技とか、あるいは体験的な学習とか、こういったものが取り入れられている。実際にやってみるといって授業が示されているというものはやはり効果的であろうと。それから、三つ目として、自分の日常生活につなげていくということもやはり大切ではないかなと思います。この3点の観点から、私としては東京書籍が優れているのではないかなというふうに思っております。

あとは、小委員会からお示しのありました光村図書につきましても残して検討するという点について異論はございません。

以上です。

○阿部委員 今回の道徳の目標という観点で、道徳的価値というところが非常に重要なポイントというところと、それから、多面的・多角的というこの2点を重点的に見せていただきました。

まず、1者目は光村です。佐藤委員からもお話がありましたように、「見方を変えて」というところの問いかけが、どう思いますかという問いかけがあって、題材に出てくる主人公の皆さんに対して、自分だったらどう思うか、相手だったらどう思うかという相手への思いやりを育むような、相手の感情をどうやって感じたらよいかというような問いかけが非常に多くて、それが道徳的価値として思いやりという意味ではつながっていくのではないかなというふうに思いました。それから、生命という意味におきましても、「深めたいむ」というところが非常に関心を呼ぶと思いましたので、まず光村というふうに思っております。

もう1者は、学研です。

こちらも、同じように道徳的価値というふうに考えたときに、内省をしながら相手のことを思いやって察する感じる力、生き方というところを非常に考えようという問いかけの中で、子どもたちに思いを馳せるような問いかけをしてくださっているなというところと、生命という意味におきましても、自己肯定感ということが多面的に考えていくというような観点から、私は、光村さんと学研さんの2者というふうに思っております。

○石井委員 私は光村図書さんを残したいなというふうに思っています。というのも、考え、議論する道徳ということもそうですし、多面的・多角的にいろいろなことを見られるような、そういった何か道徳的な価値を高めて理解を深められるようなものが光村図書にはあるかなというふうに思いました。

私は、小学校からの接続みたいなのところもちょっと見ていて、光村図書さんは3年間を通して一番後ろのほうに小学校のときに学んだ教材を掲載していて、子どもたちが小学校で学んだ教材というのを中学校でも読んで自分がどういうふうに関わり方が変わったかということをもっと深めていくこともできるのかなというふうに思いました。

各者の巻末の振り返りシートのようなものもあるのですが、その中で、光村図書さんは、自由に子どもたちが書けるような学びの記録というところにとどまっていて、特に評価するものではなく、子どもたちが自由に書けるようになっているというところも非常に好感を持ちました。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

そうしますと、ただいまの皆さんのご意見、小委員会委員長の意見を踏まえますと、東書、光村、学研の3者を選定の候補として挙げることになろうかと思えますけれども、先ほど来申し上げているように、今日は1者に決めるということではないので、この3者を選定候補といたしたいということによろしいでしょう

か。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、この3者を選定の候補とすることとして、8月7日に引き続き審議を行い、1者を決定することといたします。

小村委員長、どうもありがとうございました。

ここで、10分ほど休憩をしたいと思います。

よろしく願いいたします。

[ 休 憩 ]

○長谷川教育長 それでは、会議を再開いたします。

次は、保健体育について審議を行います。

私から、小委員会委員長に確認をさせていただきます。

特定の組織や団体、あるいは会社等から働きかけ、影響力の行使、圧力等はないませんでしたか。

○保健体育小委員会委員長 ございませぬ。

○長谷川教育長 それでは、委員長から、調査研究報告(答申)のご説明をお願いいたします。

○保健体育小委員会委員長 中学校部会の保健体育小委員会委員長の富川です。

今回、調査研究の対象となったのは、東書、大日本、大修館、学研の4者で、合計4点の教科書です。

保健体育小委員会において、教育委員会が定めた令和3年度から使用する中学校用教科用図書(調査研究)の基本方針に基づき、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりましたので、報告いたします。

まず、調査研究の観点Aである北海道教育委員会が作成しました採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

インデックスの採択参考資料、保健体育の保体1ページをご覧ください。

保健体育科では、学習指導要領においては、上段の教科の目標で、特に、(1)健康・安全について理解し、基本的な技能を身に付ける。

(2)運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考

し判断する能力を育成することなどが重視されております。

次に、保体2ページの様式2から保体8ページの様式5までについてです。

この中では、様式2の「取扱い内容、内容の構成・排列」の自分の考えを広めたり、深めたりする活動について、各教科書の特徴が見られました。

保体2ページ、東書は、二つ目の丸にありますように、運動やスポーツの多様な楽しみ方や、これからのスポーツライフについて考え、仲間と比較する学習活動が設定されております。

保体3ページ、大日本は、三つ目の丸、二つ目中黒にありますように、資料を基に運動やスポーツの必要性について話し合い、自分にとっての必要性や楽しさについて考える活動が設定されております。

保体4ページ、大修館は、三つ目の丸の二つ目の中黒にありますように、運動やスポーツへの多様な関わり方について考え、中学校生活の中でできることを、する、見る、支える、知るの視点で発表し合う活動が設定されております。

保体5ページ、学研は、三つ目の丸の二つ目の中黒にありますように、生涯にわたってスポーツを楽しく続けるポイントについて考え、大人になってもスポーツを継続するために必要な環境や工夫について話し合う活動が設定されております。

次に、調査研究の観点B、札幌市として設定する調査研究項目についてご説明いたします。

答申の保2ページをご覧ください。

今回、調査研究項目として計6項目について調査研究いたしましたが、そのうち、3(1)課題探究的な学習活動の取扱い、3(2)基本的な生活習慣の確立についての取扱い、4(1)命を大切にす指導の取扱いについて、各教科書の特徴が見られましたので、ご説明いたします。

3(1)の課題探究的な学習活動の取扱いでは、保健体育の学習を通して健康に関わる事象や健康情報などから、自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する学習活動が可能な内容となっているかという観点で調査を行いました。

3(2)基本的な生活習慣の確立についての取扱いでは、運動、食事、休養及び睡眠などの生活習慣と健康、がん等の生活習慣病の予防及び回復、感染症の予防など、健康な生活と疾病の予防についての理解が深まる内容となっているかという観点で調査研究を行いました。

4(1)命を大切にす指導の取扱いについては、生殖に関わる機能の成熟や、欲求、ストレスへの対処と心の健康などへの理解を深め、実践的な態度を高める内容となっているか、また、自然災害による傷害の防止及び応急手当の意義と実際について、知識や技能を身に付けるとともに、実践的な態度を高められる内容となっているかという観点で調査研究を行いました。

答申の保5ページをご覧ください。

各者の特徴についてですが、課題探究的な学習の取扱いに各者の特徴が見られました。

課題探究的な学習に関する記述については、スクリーンで説明いたします。

スクリーンをご覧ください。

がんの予防のページを例に紹介いたします。

東書は、学習が、見つける、学習課題、課題の解決、活用する、広げるという流れで統一された課題と構成となっております。

大日本は、学習のねらいが示されるとともに、つかもう、話し合ってみよう、活用して深めようという流れで、統一された構成となっております。

大修館です。

大修館は、今日の学習で生徒に見通しを持たせるとともに、課題をつかむでは、活動を通して生徒自らが課題を発見するように促しております。さらに、コラム、事例、表やグラフなど、様々な資料から科学的な視点で課題を解決し、学習をまとめる構成となっております。

続いて、学研です。

学研は、学習の目標を示して見通しを持たせるとともに、課題をつかむでは、活動を通して生徒自らが課題を発見するように促しております。さらに、考える・調べる、まとめる・深めるという学習の進め方で、主体的に課題を解決する学習活動が可能な構成となっております。

続いて答申です。

保6ページをご覧ください。

感染症に対処する方法については、各者の特徴が見られました。

併せてスクリーンをご覧ください。

東書の150ページです。

東書では、インフルエンザの流行時にかかる人とかからない人がいる理由を考える活動が設定され、感染のリスクを軽減する方法に気付くことが可能な構成となっており、感染症の予防について理解を深めることが可能な内容となっております。

続いて、大日本の135ページになります。

大日本は、感染症を予防するための3原則を参考に、感染症を予防するためにはどうすればよいかを話し合う活動が設定されており、感染症について理解することが可能な内容となっております。

続いて、大修館です。

138ページになります。

大修館は、マスクをつける意味をマスクの構造の視点から考える活動が設定

されるとともに、三つのせきエチケットの方法について掲載しており、感染経路への対策について理解し、予防への実践意欲を高めることが可能な内容となっております。

最後に、学研になります。

155ページです。

学研は、学級閉鎖時の症状のない人の過ごし方について意見を交流する活動が設定されており、感染症について理解することが可能な内容となっております。

次に、4（1）命を大切にす指導の取扱いについてご説明いたします。

答申の保8ページをご覧ください。

ストレス対処の方法については、各者の特徴が見られました。

スクリーンをご覧ください。

東書の45ページになります。

東書は、相手を不快にさせることを避け、自分の気持ちや意見を伝える活動が設定されており、欲求やストレスへの対処について理解を深めることが可能な内容となっております。

次に、大日本です。

大日本は、ストレス対処法について考えながら一覧表を作る活動が設定されており、ストレス対処についての実践的な態度を身につけることが可能な内容となっております。

続いて、大修館です。

52ページになります。

大修館は、呼吸法や筋肉をリラックスさせる方法などを身につける活動が設定されており、体育分野で学習する体ほぐしの運動での体の緊張をほぐす活動と関連付けることによって、ストレスへの対処について理解を深め、実践的な態度を身に付けることが可能な内容となっております。

最後に、学研です。

65ページになります。

学研は、困っている友人への助言について考える活動が設定されており、ストレスへの対処について理解することが可能な内容となっております。

以上、保健体育についてご説明させていただきました。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、皆様からご質問などがありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

○阿部委員 2点ほど質問させていただきます。

まず、1点目ですけれども、今回の新型コロナウイルスに関連しまして、感染症についてのページの取扱いについて教えていただきたいというのがまず1点目です。

もう一つは、最後にご説明いただきました命を大切にするというところで、それぞれの発行者によって扱い方にかなり差があるのかなという感じがしました。

例えば、東書さんの場合だと、ストレスの対処方法は他者とのコミュニケーションというところに主軸を置いていると感じたのですが、大修館さんや学研さんは、むしろ自分と向き合いましょうというリラクゼーションの方法というところで違いを感じたのですけれども、そのあたりについて、小委員会の中で何か話し合われたことがありましたら教えていただきたいと思います。

○保健体育小委員会委員長 まず、1点目の新型コロナウイルス感染症のことですけれども、この感染症が取り上げられたのは今年の1月くらいからということで、教科書の内容について扱っている者はありません。しかし、感染症については、今、子どもたちは非常に敏感になっていますし、保護者の方も敏感になっておりますので、そこの部分について取り上げたいと思っています。

その件に関しては、小委員会の中でもかなり話題になっておりました。

新型コロナウイルス感染症自体は取り扱ってはいませんが、感染症全般の予防について、全ての者で取り扱っています。

例えば、東書の151ページ、活用するというところがあるのですけれども、そこにはスペイン風邪と呼ばれたインフルエンザが世界的に流行したときに、セントルイス市長が出した緊急事態宣言が有効であった理由を考える活動が設定されており、感染症への理解が深まる内容となっています。

続いて、大修館の135ページをご覧ください。

飛沫と飛沫核の違いについての知識を学び、さらに、138ページに移りますと、マスクを付ける意味を考える活動が設定されており、感染経路への対策について理解し、予防への実践意欲を高めることが可能な内容となっています。

マスクについては、ほとんどの者で触れております。ただ、大修館については、かなり細かく扱っています。他者のマスクについては、後ほどまた触れます。

実際に生活を連想できる構成であるという点では、大修館のマスクの説明については、子どもたちに大変理解されやすいと思います。

学研は154ページになります。

このページの一番下になるのですけれども、情報サプリーというところでマスクが触れていることと、同時に、資料6の155ページになりますが、マスクの

着用について少し触れられているところになります。スクリーンちょうど真ん中のところになります。

それから、大日本は、134ページでマスクを取り上げております。

資料1になります。写真も掲載されておりますけれども、それ以外としては資料1にマスクの着用というところがあります。

2点目の命の大切さについてご説明したいと思います。

リラクゼーションのところを少し取り上げたいと思います。

なぜかという、ストレス対処について、新しい学習指導要領では、今までの保健の中に技能という観点はありませんでしたが、新しい学習指導要領から、保健の中に技能をしっかりと位置付ける規定になっています。

それから、保健と体育を関連させるということも学習指導要領の大きな柱になっているものですから、ここを取り上げることによって、各者の取上げ方が違うということが明確になるとと思いますので、紹介させていただきます。

まず、東書です。

40ページ、41ページです。

ストレスとは何か、それから、ストレスの対処について知識を得ます。そして、それを生かしながら、42ページでリラクゼーションの方法、技能を学びます。ここでは、背伸びと呼吸法が1例ずつ紹介されております。

続いて、大日本です。

46ページ、47ページになります。

東書と同様に、2ページにわたってストレスの対処について学びます。学んだ上で、51ページでリラクゼーションの方法について学びます。大日本は、筋肉の弛緩を取り上げております。

続いて、大修館です。

50ページ、51ページになります。

同じように、この2ページで、ストレス対処について学んだ上で、大きな特色としては、大修館は、52ページ、53ページの2ページを使って、呼吸法、体ほぐしの運動、筋肉の弛緩の三つを取り扱っています。

特に、体育分野の体ほぐしの運動と保健分野の内容の関連を明確に位置付けて生徒に意識させていること、そして、53ページに、ヨロブラ体操という体操の方法が紹介されていますが、自分一人ではなく、他者との関わりでできる方法を紹介しているところに大きな特徴があると言えます。

また、53ページの上段にありますように、学習の目標として、方法を身に付けると技能を身に付けるということを明確に示していることも特徴の一つであります。

最後に、学研になります。

62ページ、63ページになります。

各者同様に、この2ページの部分でストレスへの対処について学び、具体として、心身のリラクセス、呼吸法、筋肉の弛緩を取り上げています。その中に、大修館と同様に、体ほぐしの運動のペアによる例も1例紹介されているのが特徴と言えます。

そして、64ページになります。

呼吸法と多くの筋肉の弛緩の方法が紹介されています。また、学習の目標として方法を身に付けようと明確に示していることも、学習指導要領に示されている内容を適切に指導することが可能になると思います。

このように、各者の特徴があります。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

○石井委員 先ほど、阿部委員が質問した内容に絡むことですが、コロナウイルス感染症で感染症へ関心の高まりがあると思っています。

学研の教科書の153ページに、感染症が広がりを見せた場合には、患者やその家族への偏見や差別の人権上の問題も起こりますという記述があつて、偏見や差別に対する配慮みたいなものを感じたのですけれども、そういった記述は他者に見受けられましたでしょうか。

○保健体育小委員会委員長 小委員会では、そこまで具体的な話題になっておりませんでした。

○石井委員 小委員会で、そういったことは特に話し合われなかったということですか。

○保健体育小委員会委員長 その部分についての議論は取り上げられませんでした。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

○佐藤委員 ちょっと小さいことかもしれないのですけれども、各者の各章末にまとめがついているわけですが、このまとめは、授業としてどのように活用されるのかということをお聞きしたいと思います。

それから、大日本は、まとめを文章にして1ページで書いているのですけれど

も、ほかの3者については課題という形で問題化されています。ただ、ほかの3者を比較してみますと、同じ課題といってもそれぞれのまとめ方が若干異なっているようですけれども、まとめとしての使いやすさの違いが小委員会で話題になっていれば、教えていただきたいと思います。

○保健体育小委員会委員長 特に大きな話題として取り上げられたわけではありませんけれども、各者の各章末にそれぞれの特色があるという話題は出ておりました。

一般的なお話になると思いますが、保健体育科の体育分野の授業、この教科書の中で言うと体育理論というところになります。そこについて各3時間程度の配当になっておりますので、授業時数が非常に少なくなっております。また、保健分野についても授業配当時数が非常に少ないものですから、一つの資料で、2ページ見開きで1時間と考えていただきたいのですが、その内容を学ぶだけでも50分の授業のうちのかなりを使われることになります。

正直に申し上げまして、授業の中で章末のまとめ問題を取り扱うことについては、少ないと思います。生徒たちが定期テストで勉強するときには有効活用しているという意味合いが大きいと思います。授業にはなかなか取り上げられない部分かと思っております。

○佐藤委員 分かりました。

そうすると、このまとめは、どちらかという生徒の自学自習という形で使われることが多いという解釈でよろしいでしょうか。

○保健体育小委員会委員長 結構です。

○佐藤委員 分かりました。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

札幌の子どもたちは、体力に大きな課題があると思っております。体力の向上について、何か工夫というか、特徴が見られた教科書はありますでしょうか。

○保健体育小委員会委員長 まず、体力向上については、北海道、さらに札幌市においても、全国のデータから見ても低い数値になっており、特に中学校2年生の女子については、顕著な例ということで指摘されていて、札幌市の重点的な課題と捉えております。

体力向上に関しては、体づくり運動の学習を通して体を動かす楽しさや心地

よさを味わわせるとともに、体づくり運動以外の運動に関する領域においても、学習した結果として、一層の体力の向上を図ることができるようにするとなっています。

座学で行われる体育分野の体育理論では、する、見る、支える、知るといった生涯にわたるスポーツライフを実現していく資質能力の育成に向けて、運動実践につながる態度の育成に関する知識を基盤とした学習の充実が必要となってきます。

例えば、学研の21ページをご覧ください。

上段にあります、スポーツのおもしろさの条件として、イーブンチャンスというものを取り上げております。どういうことかと申しますと、例えば、イラストにあるように、体の違い、または大人と子どもが同じ競技をした場合に、最初から結論が見えている状況になります。それから、部活動をしている生徒としていない生徒が試合をしたとなれば、結果は当然見えているのですけれども、イーブンチャンス、何か条件をつけることによって勝敗が分からなくなるようにする、そんな事例を学研では取り上げています。

これは、運動やスポーツへの多様な関わり方を実践する意欲を高めることが可能になる、運動の苦手な子どもでも、この方法だったら運動に関わることができると思うことが、意欲につながり、体力につながると考えています。

また、大修館の10ページをご覧ください。

ランニングを嫌う子どもたちも少なくありません。ランニングの楽しみ方を、健康、競争、交流などの多角的な視点で示しており、運動やスポーツの多様な楽しみ方について理解を深めることが可能な内容となっています。

体育の授業においても、ただ体を動かすということではなくて、子どもたちが運動、またはスポーツの気持ちよさ、心地よさ、楽しさを感じられるように促すことによって、自発的、自主的に体を動かす機会が増え、ひいてはそれが体力向上につながっていく、そんな学校での学びの場としたいと考えております。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

それでは、私から、もう一点、お伺いしたいと思います。

調査研究の観点A、北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究、そして、調査研究B、札幌市として設定する調査研究項目におきまして、特徴が顕著であった教科書にはどういったものがあつたか、その理由について併せてお伺いしたいと思います。

○保健体育小委員会委員長 特長が顕著な教科用図書は、大修館、学研の2者でございます。

理由といたしましては、大修館は、各ページにおいて、「きょうの学習」で生徒に見通しをもたせるとともに、「課題をつかむ」では活動を通して生徒自らが課題を発見するように促していること、さらに、「コラム・事例」

「表やグラフ」など様々な資料から科学的に視点で課題を解決し、学習をまとめる構成となっているという特長が挙げられます。

また、感染症の予防について生徒に身近な具体例が明示されるなど、今日的な健康課題に対応するための実践意欲を高めることが可能な内容となっております。

学研は、各ページにおいて、「学習の目標」を示して見通しをもたせるとともに、「課題をつかむ」では活動を通して生徒自らが課題を発見するように促していること、さらに「考える・調べる」「まとめる・深める」という学習の進め方で、主体的に課題を解決する学習活動が可能な構成となっていることが挙げられます。

以上の2点から2者を挙げさせていただきます。

以上です。以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

特徴が見られた教科書は、大修館、学研ということでした。

このことを含めまして、皆さんからご意見がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

○道尻委員 今、委員長からの答申にもありましたけれども、まず、大修館につきましては、先ほど挙げられたところは、資料が豊富だということもありますが、今の新型コロナウイルスの関連で、感染症ということが非常に重要になっている状況です。感染症の予防や免疫、抵抗力などについての記載がとても充実しているところも推薦する理由に挙げたいと思います。

もう一つ、私は東京書籍もよいと思っているところがありまして、感染症についても分かりやすく書かれていると思いますが、最近の問題として、性の多様性やインターネット依存症などについても分かりやすく書かれているので、東京書籍についても、よい教科書ではないかと思っております。

以上の二つを挙げさせていただきます。

○佐藤委員 私は、先ほど質問したまとめの部分以外に、正直に申しますと、各

者の違いはあまり見られなかったです。

ただ、見開きを開いたときの色使いや節、項目の見やすさといった観点からすると、大修館が非常に落ち着いていて、内容が頭に入っていくやすい構成になっているのではないかと思います。節や項目のくくり方のようなものがほかの教科書と比べて少し落ち着いていると思います。ですから、私としては大修館に残っていただければよいと思います。

それから、皆さんのお考えで他者を残して、今後も比較、検討していくということに賛成いたします。

○阿部委員 私も1者目は大修館と思っています。委員長からのご説明のとおり、感染症の予防のページについては、他者に比べると、より一層ページ数が多くて、内容もマスクに触れたり、内容が充実している部分が特徴的と思いました。

それから、がんの早期発見につきましても、他者に比べると非常に細かく表現できていて、実際の体験者のコラムを載せている点などでは、大修館さんと思っています。

もう一者は、委員長からもご推薦がありましたように、学研さんと思っています。同じように感染症の予防について挙げています。

大修館も挙げていただいているのですけれども、免疫から感染経路までについて事細かく表現されています。他者も表現はできているのですが、この2者については非常に分かりやすくまとめていただいていると思いましたので、大修館と学研の2者と思っています。

○石井委員 私も大修館と学研を残したいと思っています。

まず、大修館さんは、先ほど委員長から説明があったように、物事のことを科学的に探究していけるという点で、他者と少し違う点と思いました。

学研さんは、まず、すごく見やすいと思ったことと、先ほどの感染症のところで、差別だったり、人権上への問題への配慮の部分が載っていて、心の部分の配慮が教科書に見受けられると思いました。

命を大切にする指導の取扱いの部分に係ると思うのですけれども、リラクゼーションの方法の部分でも自分の気持ちや相手の気持ちだったり、コミュニケーションなど、今の子どもたちに配慮する形でSNSの取扱いについても触れていますし、口絵の部分で、SNSでの相談窓口も載っていて、札幌市にも合っているのではないかと思います。

細かい文章などを拝見しても、子どもたちへの心の面での配慮が見受けられるので、私は学研を残したいと思っています。

○長谷川教育長 ただいまの皆さんのご意見、そして、小委員会委員長のご意見を踏まえて、大修館、学研、東書の3者を選定の候補としたいと思っておりますけれども、よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、この3者の教科書を選定の候補とすることとして、8月7日に引き続き審議を行いまして、1者に決定したいと思います。

富川委員長、どうもありがとうございました。

それでは次に、社会について審議を行います。

私から、小委員会委員長に確認させていただきます。

特定の組織や団体、あるいは会社等から働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

○社会社会小委員会委員長 ありません。

○長谷川教育長 それでは、委員長から、まず地理的分野の調査研究報告、答申の説明をお願いいたします。

社会小委員会委員長の大浦であります。よろしくをお願いいたします。

今回、調査研究の対象となったのは、東書、教出、帝国、日文の4者、4点の教科書であります。

これらの教科用図書について、教育委員会が定めた令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査研究の基本方針に基づき、公正・中立な立場から、具体的な調査研究を進めてまいりましたので、報告いたします。

まず、調査研究の観点A、北海道教育委員会が作成しました採択参考資料を基礎資料とした調査研究の結果についてご説明いたします。

インデックスの採択参考資料、社会地理の1ページをご覧ください。

様式1の上段の強化の目標のところにありますように、地理的分野では、社会的な事象の地理的な見方、考え方を働かせ、グローバル化する国際社会に、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質、能力の基礎を育成することとされております。

インデックスの採択参考資料、社会の地理7ページ、様式4をご覧ください。

②北海道と関わりのある内容を取り上げているページ数及び箇所数の上から二つ目、アイヌの人たちの歴史・文化等を取り上げているページ数について、教出が9ページ、他の3者が3ページと、ページ数に差が見られるとともに、各者

の特徴も見られました。

スクリーンをご覧ください。

東書の268ページでは、現代に受け継がれるアイヌ民族の文化について、特設ページで取り上げており、伝統工芸品の継承という観点から解説することで、現在にもアイヌ文化が引き継がれていることを生徒が捉えられる内容となっております。

教出の270ページでは、特設ページの「現代の日本の課題を考えよう」で、見開き2ページにわたって、アイヌ民族の歴史や文化等について詳しく説明し、持続可能な社会をつくっていくという視点で、生徒の意見交換を促す内容となっております。

また、アイヌ語に由来する地名が、北海道地方のみならず、樺太や東北地方にも見られることについて地図で示し、アイヌ文化が北海道以外にも広がっていたことを生徒が捉えることが可能な内容となっております。

続きまして、帝国の284ページにおいて、教出と同様に、先住民族であることが初めて明記された法律についても触れており、アイヌの人々が尊重される地域社会づくりという視点についても考えられることが可能な内容となっております。

続きまして、日文の253ページでは、学習内容を深めるコラムの「地理プラスα」でアイヌ民族について触れ、民族共生象徴空間についても紹介しております。

次に、調査研究の観点B、札幌市として設定する調査研究項目について説明いたします。

インデックスの社会、地理3ページをご覧ください。

札幌市として設定する調査研究項目の7項目のうち、1(2)未来の札幌を考える【環境】の取扱い、3(2)資料の取扱い、4(2)札幌や北海道の地域的特色の取扱いの3項目について、各者の特徴が見られました。

1(2)未来の札幌を考える【環境】の取扱いについてご説明いたします。

地域の環境問題や環境保全について調べる中で、環境保全に関わる人の営みを知ることにより、自ら環境を大切にすることを育むことが可能な内容となっているかについて調査研究を行いました。

答申は、地理の5ページ、6ページをご覧ください。

地理の学習における地球的課題を考える際に、4者とも持続可能な開発目標SDGsを取り上げ、世界及び日本の諸地域における学習と関連させております。日本の諸地域の学習では、全ての者で、九州地方と北海道地方で自然環境という視点から、地域の特徴を考える学習構成となっております。

東書の55ページをご覧ください。

世界の諸地域の学習の導入で、持続可能な開発目標SDGsを紹介した後、139ページの世界の諸地域の学習のまとめで、SDGsの視点から振り返り、270ページでは、身近な地域の課題を考える際の視点として捉えるとともに、地球的規模の課題を身近な地域の課題につなげることが可能な構成となっております。

続きまして、教出の186ページをご覧ください。

九州地方の学習の章末の特設ページ、「現代の日本の課題を考えよう」では、深刻な公害から徹底したゴミの分別などの対策によって、環境モデル都市に選ばれた水俣市の取組を掲載しており、人々の営みがまちづくりにつながることを理解できる内容となっております。

帝国の巻頭のページをご覧ください。

巻頭の見開きページで、持続可能な開発目標SDGsにおける17の項目を写真とともに紹介し、地理の学習に取り組む上で大切な視点を分かりやすく示しています。

186ページをご覧ください。

特設ページの「地域の在り方考える」では、環境首都を目指す北九州市の環境モデル都市としての取組を紹介しております。

同じく、世界に誇れる環境都市を目指す「環境首都・札幌」宣言を行っている札幌市の取組との関連を図るきっかけをつくること可能な内容となっております。

続きまして、日文の175ページの下のほうをご覧ください。

九州地方の学習において、コラム、「地理プラスα」で、水俣市の公害について語り部の話を聞く高校生の写真やごみの分別収集に取り組む人々の写真等を掲載し、環境問題に取り組む人々の様子について紹介することを通して、水俣市の環境モデル都市としての取組を生徒が理解しやすい内容となっております。

答申の地理の3ページにお戻りください。

3(2)資料の取扱についてご説明いたします。

この項目では、写真などの資料が、地理的事象に対する興味関心を引き出し、調べたことを比較したり、関連付けたりして、学習課題を解決することにつながる内容となっているかについて調査研究を行いました。

答申、地理9ページと10ページ、併せてスクリーンをご覧ください。

東書の260ページでは、見開き2ページの最初に、鮮明で大きな標識の写真に掲載し、「考える」で下向きの矢印が何を示すかを問うことをきっかけに、北海道地方の人々がどのような工夫をしながら暮らしているのかを考える構成となっております。

また、人々の工夫については、「地理にアクセス」で内容を補充し、地理の学習に対する興味関心を高めることが可能な資料となっております。

教出262ページでは、2種類のウインタースポーツの写真と積雪量を示す地図が配置されております。

このように、見開き2ページの左上に複数の資料を掲載し、キャラクターの吹き出しで疑問を位置付ける興味関心を引き出したり、その地域のイメージをもたせたりすることに効果的な構成となっております。

続きまして、帝国の274ページでは、札幌市の雪堆積場の大きな写真が掲載されております。

このように、1時間の学習の最初に鮮明な写真を掲載することで、生徒の興味関心を引き出すことが可能な内容となっております。なお、このページにおいては、除雪を行う札幌市の担当者の話を併せて掲載しております。

また、帝国では、各施設の冒頭には、ダイナミックで人の動きが見える写真、写真で眺める何々州とか、何々地方のページが設けられ、国旗を位置付けることで、その国や地域のイメージをもたせることを可能にしており、画像資料から興味関心を引き出すことが可能となっております。

続きまして、日文の252ページでは、見開き2ページの最初に6種類の写真を掲載し、キャラクターの吹き出しを併せて掲載することで、写真からその地域のイメージを持たせるようにすることが可能となっております。

答申の地理の3ページにお戻りください。

最後に、4(2)札幌や北海道の地域的特色の取扱いについてご説明いたします。

この観点では、地域の発展を支える人々の営みによって、地域への関心を高められる内容となっているかについて調査いたしました。

答申は、地理12ページ、13ページと合わせてスクリーンをご覧ください。

東書の266ページ、267ページでは、北海道地方の学習のまとめの活動として、自然環境を生かした北海道ツアーを企画しようという観光マップと企画書を作成する、みんなでチャレンジを掲載し、生徒が仲間と議論し合う表現活動を通じて、北海道地方への興味関心を高める内容となっております。

教出の259ページでは、地震による停電と、復旧について捉えることが可能なブラックアウトの写真を掲載することで、防災の観点から地域の課題を捉え、地域への関心を高めることにつながる内容となっております。

帝国の276ページ、277ページでは、大正時代の泥炭地開発の写真を掲載し、屯田兵についても詳しく説明するとともに、現在の北海道産銘柄米が並ぶ首都圏の写真や稲作の北限の変化を表す地図を掲載することで、先人たちの開拓の苦勞を知り、北海道地方の発展を捉えやすい構成となっております。

最後に、日文の256ページでは、人口に占める外国人の割合が高い市町村など、昨今の外国人観光客や長期滞在者の増加等を捉えやすい効果的なグラフを掲載

し、北海道地方の特徴をつかむことが可能な資料となっております。

また、253ページには、北海道と札幌市の人口の推移を示すグラフを掲載し、札幌市の発展についてグラフのデータから捉えやすくしております。

以上、社会・地理的分野について説明させていただきました。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、各委員からご質問がありましたらお願いいたします。

○石井委員 1点質問をさせていただきます。

各者にコラムや特設ページのようなものがあるのですけれども、小委員会で各者の特徴などを話し合われたかどうか、何かあれば教えてください。

○社会小委員会委員長 コラムや特設ページのことについては、小委員会で話題として挙がっておりました。その中で、東書では、特設ページ、「資料から発見」「もっと地理」などで資料を読み取る力を身に付けたり、異なる視点から物事を考えたりすることが可能な内容となっているという意見や、教出は、「地理の窓」というコラムが多数掲載されており、生徒が本文の内容に対して、より興味関心を高めることが可能な内容となっています。

また、帝国では、未来に向けてというコラムで、SDGsの視点から25のテーマについて紹介されており、生徒に持続可能な社会をつくるという視点を、地理の学習を通じて意識させることが可能な内容となっています。

また、日文では、「アクティビティ」というコーナーが設けられており、思考ツールを使って、生徒が学習内容をまとめるページが10か所設けられているという話が出ておりました。

○石井委員 ありがとうございます。

○道尻委員 私から、1点質問させていただきます。

課題探究的な学習に適した構成という面で、小委員会で何か話題になったものがあったら教えてください。

○社会小委員会委員長 課題探究的な学習は札幌市の教育で非常に重要視しておりますので、話題となっております。

例えば、発問に関して言いますと、東書の108ページの「タイムズスクエアの大きな写真から読み取る」で、日本でも見られるものを探す活動を通して、アメリカの文化や企業について考えるきっかけを生む構成となっているとか、教出で

は、広い駐車場の写真と人口100人当たりの自動車保有台数を表すグラフ、それから、キャラクターの吹き出し等、複数の資料について、横にある「ルック」で解説することで、アメリカが世界の暮らしや産業についてどのような影響を与えているかという課題が考えやすくなっているという構成になっています。

それから、帝国では、似たような写真ですけれども、あふれんばかりの自動車に囲まれた野球場の写真と、どうしてこんなに広い駐車場が必要なのかというキャラクターの吹き出しから、アメリカの人々の生活にはどのような特色があるのかを考えるという課題を生む構成となっています。

最後に、日文ですが、日文では、4コマ漫画を用いて、グーグルやアマゾン等の企業を紹介し取り上げることで、なぜアメリカがグローバル化する世界の中で大きな影響力をもっているのかという学習課題を生む構成となっているのではないかという話が委員の中から出ておりました。

○道尻委員 分かりました。ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

○阿部委員 先ほどもご説明いただいたのですが、資料の取扱いというところで、特に各者で写真の掲載の仕方に特徴があると感じたのですが、小委員会の中で何かそういう話がありましたら教えていただきたいと思います。

○社会小委員会委員長 小委員会の中では、委員から各者の写真の取扱いについてお話が出ていました。

例えば、東書では、節の導入部分に地域の特色を表す大きな写真を掲載しております。その節での学習に対して関心をもてるように配置していること、それから、世界の諸地域の学習においては、左のページに州の特徴を表す写真を掲載するとともに、右ページに州の地図や面積、人口、GDPについて、世界の中でどのくらい占めているのかを示すグラフなどを載せて、興味関心を引くような掲載になっております。

それから、教出では、導入部において、複数の写真を掲載し、キャラクターの吹き出しやルックというコラムで補助的な言葉を合わせて学習課題を生む構成となっています。

それから、帝国では、編修趣意書によると、学びに向かう意欲の喚起と学習内容に直結する資料性との双方を備えるべく、吟味して精選、また、適切な写真資料を提示するために、自社で現地に出向いて取材を行い、より学習効果の高い被写体やアングルを追究していることが趣意書の中に書かれておりました。また、

小委員会の中でも、帝国の写真については大きく鮮明であるという意見を述べている委員さんもおられました。

日文では、導入部分に写真資料を大きく掲載するとともに、クイズを設定することで、本時で何を学ぶのかを生徒に分かりやすくしている形で写真を扱っております。

○阿部委員 ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

それでは、私から、1点お伺いをいたします。

先ほど来の質問と重なるところが若干あると思いますけれども、まず、調査研究の観点A、北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究、そして、調査研究の観点B、札幌市として設定する調査研究項目、これらにおいて特徴が顕著であった教科書についてお伺いをしたいと思います。理由も併せてお願いいたします。

○社会小委員会委員長 特徴が顕著な教科用図書は、教出、帝国の2者であります。

理由といたしましては、教出は、アイヌ民族の歴史や文化について詳しく扱うとともに、ブラックアウトの写真に掲載するなど、北海道の特徴を捉えた内容となっております。

また、写真と地図、キャラクターの吹き出しなどの複数の要素から、探究の意欲を掻き立てる工夫があることに特徴が見られました。

帝国は、構図等が工夫された大きな画像資料により、学習の導入において興味関心を引き出すことで、探究的に学ぶことが可能な構成となっております。

また、雪を利用することに目を向けさせる教材の扱いや、SDGsを意識したコラムを掲載するなど、持続可能な社会についても意識させることが可能な内容となっていることが挙げられています。

2者とも、札幌市で大切にしている課題探究的な学習の充実に向け、画像資料やコラム、グラフ等から、子どもたちが関心や意欲を高め、多様な視点から追究が可能な内容となっており、社会的事象に対する地理的な見方、考え方を育成することが可能な構成となっていると考えています。

以上の点から2者を挙げさせていただきます。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

教出と帝国ということですが。

教出は北海道の特徴を捉えた内容となっていたり、複数の要素から探究の意欲を引き出す工夫があったということでした。

帝国のほうは大きな画像資料などによって、探究的に学ぶことが可能となっていたり、SDGsを意識したコラムを掲載するなど、持続可能な社会についても意識させているということでした。

皆さんからご意見、ご質問などございましたらお願いいたします。

**○道尻委員** 今お話しいただいた答申の内容と私も同感のところがありまして、構成、興味関心を引き出すような形になっているというところで、教育出版と帝国書院は優れているのではないかと思いますので、この2者を推したいと思いません。

さらに、先ほども触れられていましたけれども、教育出版については、北海道に関わる記載が充実しているという点、それから、帝国書院については、画像資料の充実と振り返りの部分も見やすく使いやすい形になっているのではないかと感じます。

**○阿部委員** 私も、委員長からの推薦がありました帝国さんと教出の2者と思っています。委員長のご意見のとおり、同意という形ですが、帝国さんについては、巻頭でSDGsについて非常に分かりやすく扱っていただいているというところで、未来の札幌を考える環境の取扱いに通じていると感じます。

それから、先ほど、質問させていただきました写真の取扱いというところですが、自社で現地に行って撮影しているということを伺って、まさにそのとおりだなと思うダイナミックな扱いの仕方をしています。現地に行っていないのですけれども、見る限り臨場感が伝わってくる写真の取扱いをしていただいているところから、今、現地にはなかなか行けない事情がありますので、そういう意味では、札幌の子どもたちにとっても非常に臨場感が伝わってくると感じております。特に、写真で眺めるというコーナーの取扱いの仕方が非常に素晴らしいと感じております。

それから、教出も同じように北海道に関する取扱いということで、アイヌ民族に関することと、先ほどもご紹介いただきましたように、ブラックアウトの取扱いをしていただいているところが2者の推薦理由になっております。

**○石井委員** 私も、教育出版と帝国書院を残したいと思っています。特に、帝国は先ほども質問させていただいたのですけれども、コラムや特設ページが充実しているという印象を受けました。SDGsはもちろんですけれども、技能を磨く

というコーナーが非常に具体的に地理的な考えを働かせて子どもたちの日常生活に結びついていて、技能の向上が図りやすいと感じてすごくよいのではないかと思います。

帝国のほうは、章の学習の振り返りのページが他者に比べて見やすいのではないかと思います。

○佐藤委員 私も、ご提案のとおり、教出、帝国を検討すべきだと思っています。

もう一つは、課題探究的な学習ということを考えると、各者は、まずは学習課題を示して最後に確認という形になっていますが、私が注目したのは、日文の「深めよう」という発問で、この「深めよう」は、それぞれの見開きページに必ずあるのですけれども、非常に興味関心、意欲を高める内容の発問になっているように思うのです。

ですから、よろしければ、2者に加えて日文も残して検討いただけたらよいと思っています。

○長谷川教育長 今、教出、帝国に加えて日文ということですが。

そうであれば、この3者を選定の候補にするということによろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、教出、帝国、日文の3者の教科書を選定の候補とすることとして、8月7日に引き続き、審議を行いまして、1者に決定したいと思います。

それでは次に、歴史的分野の調査研究報告(答申)のご説明をお願いいたします。

○社会小委員会委員長 それでは、歴史的分野についてご説明いたします。

今回の調査対象となったのは、東書、教出、帝国、山川、日文、育鵬社、学び舎の7点の教科書であります。

なお、育鵬社については、教科書発行者から教科書見本が提供されませんでしたので、文部科学省から提供された教科書編修趣意書及び北海道教育委員会が作成した採択参考資料を基に調査研究を行ったことを申し添えます。

初めに、調査研究の観点Aである北海道教育委員会が作成しました採択参考資料を基礎資料とした調査研究内容を報告いたします。

インデックスの採択参考資料、社会の歴史1ページをご覧ください。

歴史分野の目標につきましては、社会的事象の歴史的な見方、考え方を働かせ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質、能力の基礎を育成することとされております。

歴史2ページから歴史28ページまでは調査研究結果を示しております。そのうち、歴史10ページの様式4の②アイヌの人たちの歴史・文化等を取り上げているページ数に特徴が見られました。

全者の8か所から19か所にアイヌの人たちの歴史や文化について掲載しております。東書、教出、帝国、山川では、アイヌに関する特設のページを設定しており、アイヌ民族の生活や文化について理解することが可能な内容となっております。

続きまして、調査研究観点Bである札幌市として設定する調査研究項目について報告いたします。

インデックスの社会の歴史1ページをご覧ください。

歴史的分野では、合計9項目について調査研究いたしました。そのうち、1（3）北海道の歴史の取扱いと3（1）課題探究的な学習の取扱い、4（3）その他の人権の歴史の取扱いについて特徴が見られました。

1（3）北海道の歴史の取扱いについては、北海道の歴史の特殊性について理解し、興味関心を高めることが可能な内容となっているかを調査研究いたしました。

歴4ページと合わせてスクリーンをご覧ください。

東書は、特設ページのアイヌ文化とその継承において、擦文文化からアイヌ文化への発展について紹介されております。

教出は、中世における樺太のアイヌの人々と元軍との戦い、オホーツク文化、擦文文化とアイヌ文化について紹介されており、アイヌ民族の暮らしや交易、和人との争いや、コシャマインなどが掲載されております。

続いて、帝国では、特設ページの昆布ロードと北前船において、アイヌの文化や蝦夷錦、北前船を通じた北海道と日本各地や中国とのつながり、高田屋嘉兵衛の活躍などについて解説されております。

また、特設ページの「住民と開拓が進む北海道」では、開拓使や屯田兵、島義勇、手宮線、札幌の近代化などの写真資料等について紹介されており、北海道開拓の歴史に対する理解を深め、興味や関心を高めることが可能な内容となっております。

続いて、山川では、特設ページの「開拓の歴史から考える札幌」において、現在に至るまでの札幌の歴史と変化の様子が紹介されております。

日文では、近世では、シャクシャインの戦いが鎮圧され、松前藩による支配が

厳しくなったことが記載されるとともに、アイヌの衣服の写真が掲載されており、北海道の歴史の特殊性について理解し、興味関心を高めることが可能な内容となっております。

学び舎は、近代では、開拓によるアイヌの生活への影響について記載されております。

答申の歴史1にお戻りください。

次に、3（1）課題探究的な学習の取扱いについてです。

この項目では、各時代の特色を分析、考察し、自分の言葉で説明することが可能な内容となっているかについて調査研究いたしました。

答申の歴史7ページから8ページをご覧ください。

東書の63ページをご覧ください。スクリーンにも同じものが写っております。

各単元の学習を、単元全体を貫く問いである探究課題、節ごとの探究のステップ、毎時間の学習課題の3段階の課題が設けられており、細かいステップで課題を解決することにより、各時代の特色を交差することが可能な構成となっております。

また、毎時間の学習において、ページ上部に課題を捉えるきっかけとなる資料が掲載されており、考える、読み取る、集める、見方、考え方のタイトルで、具体的に資料を活用する課題を示すことで考えを深めることが可能な構成となっております。

次に、教出の60ページ、61ページをご覧ください。

各章の「学習を始めよう」では、その時代を象徴する資料とそれに関わる問いを示し、これから学習する時代を概観することで、学習課題や学習内容について把握することが可能な構成となっております。

続いて、帝国の60ページです。

各単元の学習は、単元全体を貫く章の問い、各節ごとの節の問い、毎時間の学習課題の3段階の課題が設けられており、細かいステップで課題を解決することにより、各時代の特色を分析、考察し、自分の言葉で説明することが可能な構成となっております。

また、ページが戻りまして58ページ、59ページでは、章の初め、または各時代の初めにタイムトラベルのページが設定されており、人々の生活の様子を描いたイラストとその説明から時代の特色をつかむとともに、前の時代と比較することで時代の変化について考察し、自分の言葉で表現できるように工夫された構成となっております。

続いて、山川の70ページ、71ページです。

ページ上部には課題を捉えるきっかけとなる資料が掲載され、学習課題が示され、ページ末のステップアップでは、さらに追究することが可能な課題が設定

されております。

続いて、日文の65ページ、68ページを見てまいります。

各編の学習では、何ができればよいのかを「めあて」で明らかにし、毎時間に学習課題を設定するとともに、見方・考え方を提示することで、学習に見通しをもつことが可能な構成となっております。

続いて、学び舎の54ページ、55ページです。

各時代の学習課題、章の初めに、テーマ、毎時間の学習課題を設定し、課題を解決する構成となっております。

答申の歴1にお戻りください。

最後に、4（3）その他の人権の歴史の取扱いについてです。

この項目では、人権問題など歴史的事象を取り扱うことで、あらゆる差別や偏見をなくす心情を育てることが可能な内容となっているかについて調査研究を行いました。

答申の歴14ページをご覧ください。

7者とも人権問題の歴史的事象を多数取り扱っており、差別されてきた人々の人権について考えることが可能な内容となっております。

スクリーンをご覧ください。

東書は、特設ページの「もっと歴史」において、解放令から水平社結成までの動きや、部落差別を取り上げた島崎藤村の「破戒」について解説されております。

次に、教出ですが、性的少数者の人権の尊重、LGBTなどについて本文に記載されております。

答申の歴15ページ、16ページをご覧ください。

次に、帝国の特設ページの「多面的・多角的に考えよう」では、女性の社会進出に関する課題について、考え方の異なる3人の女性活動家の主張を踏まえて考察することで、当時の女性の人権について理解を深めることが可能な内容となっております。

続いて、山川は、特設ページにおいて、岩倉使節団に同行した女子留学生の活動について紹介しております。

続いて、日文は、古代から現代までの各時代の女性の姿を描いたコラムが掲載されており、女性の人権の歴史を理解することが可能な内容となっております。

最後に、学び舎は、近代の扉のページで、世界の女性たちの姿を写真で紹介しています。

以上で、歴史的分野の説明を終わります。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ただいまの説明に対しまして、各委員からご質問がございましたらお願いいたします。

○石井委員 先ほど地理でも同じ質問をさせていただいたのですが、歴史の教科書でも特設ページだったり、コラムが多数掲載されていると思うのですが、各者に何か特徴があれば教えてください。

○社会小委員会委員長 例えば、帝国と山川についてになりますが、帝国は北海道の近代化の学習で松浦武四郎を紹介しており、そのすぐ後の特設ページで移住と開拓が進む北海道において、クラークや島義勇などの資料を基に、開拓によって人々の生活や環境がどのように変わったのかを継続して学習を行うことができる構成となっています。

また、山川では、特設ページの開拓の歴史から考える札幌というところにおいて、開拓の歴史から、1972年の冬季オリンピックまでの札幌の開発や整備の工夫について、資料を読み取り調べる内容となっております。同じように、ほかにも幾つかの者に特設ページに特徴のある部分がありました。

○石井委員 ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

○道尻委員 歴史において、課題探究的な学習がやりやすいというか、行わせやすい教科書の特徴を教えてください。

○社会小委員会委員長 ありがとうございます。

課題探究的な学習の部分は非常に重要視されていると思います。学習指導要領では、我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、複数の立場や意見を踏まえて考察する力や説明する力を育てるため、課題探究的な学習を重視することが示されております。

つまり、各時代の特色について、前の時代との違いをなどに注目し、自分の言葉で説明できるようにしていくことが求められております。そのため、毎時間の学習課題はもちろんのこと、各時代の特色をつかむことのできる学習課題の設定や構成が重要となります。

その点において特徴のあるのは、例えば、帝国の58ページ、59ページをご覧ください。

鎌倉時代の導入ページとなっておりますが、59ページに「前の時代と比べて特

色を考えよう」の囲みの中に、次のような課題が設定されています。

「平安時代と比べると、どのような点が変化し、どのような共通点があるでしょうか。例えば、場面ウのように、屋敷のつくり方や住んでいる人々に注目して確認してみよう」、この課題により、平安時代について振り返るとともに、これから学習する鎌倉時代についてイメージすることができるようになっております。

なお、東書の62ページ、63ページにおいても、導入の活動において、立場の違う人々の生活の様子を描いたイメージ図や歴史的資料から時代の特色を話し合う活動が設定されており、これから学習する時代についてイメージすることが可能な内容となっております。

以上です。

○道尻委員 つまり、分かりやすい図などを用いて、学習者の気付きを促すといったタイプの教科書がよいということでしょうか。

○社会小委員会委員長 そういう意見も小委員会の中で出ておりました。

○道尻委員 重ねて、発問の仕方と言うとどうですか。

こういう図は、各者はところどころにしかないのです。ですから、東書で言うと、見開きに出てきている学習課題や「チェック」「トライ」で、帝国で言うと、同じく「学習課題」と「確認しよう」、「説明しよう」といったように、各者に見開きに出てくる発問に特徴があるといった話は小委員会では出ていませんでしたか。

○社会小委員会委員長 発問に関して言いますと、例えば、帝国や東書において、最初に章の発問、課題があり、節の課題があり、それから、見開きのページごとの学習課題という形で3段階で課題を設定します。それを一つずつ解決することによって、最後に章の課題を解決していく流れになっているのが帝国と東書でした。

○佐藤委員 分かりました。ありがとうございます。

○阿部委員 2点お伺いしたいのですけれども、小学校からの接続という意味で特徴のある発行者がありましたら教えていただきたいというのがまず1点です。

もう1点は、各者の巻末に年表がついていると思うのですけれども、その小委

員会の中で年表について何か話題になったことがありましたら教えてください。

○社会小委員会委員長 まず最初に、小学校との接続の観点でお答えしたいと思います。

小学校の歴史は歴史上の人物にスポットを当てており、その点ではどの教科書も冒頭の部分で、歴史上の人物を取り上げ、小学校から中学校への円滑な接続ができるような工夫がされております。

特に、東書では、6ページと7ページにある歴史への扉で、小学校で学習した主な出来事や人物を、絵を見ながら時系列で振り返ることができるようになっていたり、各時代の終わりには、中学校で学習する事柄を入れ込んだ年表を掲載したりするなど、小学校での学習を生かす構成が見られました。

帝国でも、1ページに歴史をたどろうということで、小学校で学習した主な出来事や人物を絵を見ながら、時系列で振り返ることができるようになっております。また、各時代の学習の初めに設定されている、「タイムトラベル」では、小学校で学んだ出来事を年表で振り返ることができるようになっていました。それから、ほかの教科書につきましても、一部に小学校で習った人物等について掲載されておりました。

それから、各者の年表のことについてですが、各者の巻末に年表を載せています。

例えば、帝国の年表についてですが、特徴的なものは、北海道の時代区分や南西諸島の時代区分ということで、北海道の視点からの時代区分という形で年表を掲載している者もありました。

以上です。

○長谷川教育長 今の北海道などが出ていた教科書はどちらになりますか。

○社会小委員会委員長 帝国になります。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

○道尻委員 私から1点です。

各者とも、学習の振り返り、あるいは、まとめや学んだことの確認といったページに力を入れているのですけれども、さらにその一つの進め方として、グループやクラスでの話し合いがいずれの教科書にも取り上げられていると思います。

実際に、授業の中でそういったことがどれくらい実践されているのかということと、各者の中で使いやすいといいますか、先生にとってよくできているとい

う意見があれば結構ですけれども、教えていただきたいと思います。

○社会小委員会委員長 ありがとうございます。

実際に授業の中でどの程度を取り扱うことができるかということについてですけれども、各者の構成としましては章の課題があり、節の課題があり、学習課題があるという流れで一つの時代を概観する流れになっておりますので、授業の最後にまとめという形で扱って、時代を自分の言葉で説明できる、話すことができるように各授業で取り組んでおります。

先ほどもお話ししましたが、帝国の最後の振り返りのところにつきましては、時代の最初に課題が設定され、その課題を、授業を通して一つ一つの学習課題を解決しながら最後にまとめるということで、ステップを踏んだ上で最後にまとめる形になっているので、授業としては扱いやすい中身になっているのではないかという意見が委員会から出ておりました。

○道尻委員 ありがとうございます。

○長谷川教育長 それでは、私から、改めて委員長にお伺いをしたいと思います。

調査研究の観点A、北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究、そして、調査研究の観点Bの札幌市として設定する調査研究項目において、特徴が顕著であった教科書についてお伺いしたいということと、併せて理由もお願いいたします。

○社会小委員会委員長 特徴が顕著な教科用図書は、東書、帝国の2者です。

2者とも、単元や節、毎時間の学習のねらいを明確にすることで、生徒が各時代の特色を捉え、自分の言葉で表現することで学びを深める構成となっており、札幌市で大切にしている課題探究的な学習を取り入れた授業の充実に資する教科書であると考えています。また、東書では、アイヌ民族の歴史や文化について詳しく扱っていることも特徴となっております。

帝国は、北海道や札幌市の発展に寄与した人物を学びながら開拓によって人々の生活や環境がどのように変容したのかを考えることができる構成となっております。

以上の点から2者を挙げさせていただきます。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

特徴が顕著であった教科書は東書と帝国の2者ということでございました。

このことも含めまして、各委員からご質問、ご意見などがございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

○阿部委員 私も委員長と同意でありまして、まず、東書と帝国の2者とおっております。

理由は、委員長からもご説明がありましたように、まず、東書につきましては、探究のステップというところで、課題探究の観点から、流れが非常に分かりやすいつくりになっているところがあります。

あとは、先ほどご説明がありましたように、小学校との接続というところでは、歴史の人物をイラストタッチで、小学校からの連続的な扱いをしてくださっているところです。

それから、冒頭でご説明がありました北海道の資料の取扱いというところでは、18ページ分を割いてやっていただいているところが非常によいと感じております。

それから、帝国でも、課題探究というところでは、タイムトラベルというコーナーをつくっていただいていることと自分の言葉で表現するところが課題探究につながるというところです。

それから、先ほどご質問しましたように、年表の取扱いにつきましては、北海道の歴史についても触れていただいているところに関心を寄せました。北海道の扱いも19ページ分を割いていただいていることと小学校との接続という意味でもイラストタッチで分かりやすく表現してくださっているという意味から、この2者がよいと思いました。

○石井委員 私も同意見で、東京書籍さんと帝国書院さんを残したいと思っています。

2者とも課題探究という点と小学校からの接続という観点で、2者が適しているのではないかと考えています。

特に、帝国書院さんは、タイムトラベルのイラストは、子どもたちに意欲や好奇心など、歴史的な関心を引きやすい、学習の意欲を引きやすいという学校意見があったように思いますし、私もそのとおりだなというふうに思っています。

また、帝国書院さんのほうはまとめのページが非常に分かりやすく、自分の力で歴史を説明できるというか、ステップごとに分かれていて、子どもたちも非常に分かりやすいのではないかと思いました。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

○道尻委員 東京書籍と帝国書院の二つについて検討していくという皆さんのご意見に賛成いたします。

今まで出ているところと重なるところもあるかもしれませんが、構成が見やすいということと考えさせる教材が豊富に載せられているというところでは。

それから、帝国書院については、学校意見の中に北海道や南西諸島の年表を取り上げて、そこを評価しているものもあつたと思いますが、私も同様に、その点は非常に分かりやすいのではないかと感じております。

○佐藤委員 私は、先ほどとちょっと似たような形になってしまうのですが、まず、歴史においては帝国書院さんが、様々な面で非常に優れていると思います。

私が注目したのは、課題探究的な学習を進めるという上で、多面的・多角的に考えてみようというコラムが四つほど入っているところが非常におもしろいと思いました。

もう一つは、日文の「深めよう」という発問が優れているのではないかと思います。ただ、帝国さんと同じ単元で比べますと、帝国の説明資料に入っている発問が日文のほうは「深めよう」に入れていることがあるのですけれども、歴史を少し違った角度から見ようといった配慮のあるおもしろい発問で、興味関心を喚起するのではないかと思います。もしよろしければ、日文も残してご検討いただければと思います。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、今のご意見や先ほどの委員長のご意見などを踏まえまして、東書、帝国、それに加えまして日文の3者を選定候補として挙げることにしてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 分かりました。

それでは、この3者につきまして選定の候補とすることとして、8月7日に引き続き審議を行いまして、1者に決定することといたしたいと思います。

次に、公民的分野の調査研究報告、答申の説明をお願いいたします。

○社会小委員会委員長 それでは、公民的分野についてご説明いたします。

今回、調査対象となったのは、東書、教出、帝国、日文、自由社、育鵬社の6

社の教科書であります。

教育委員会が定めた令和3年度から使用する中学校用教科用図書の研究の基本方針に基づき、公正・中立な立場から具体的な調査研究を進めてまいりましたので、報告いたします。

なお、育鵬社については、教科書発行者から教科書見本が提供されませんでしたので、文部科学省から提供された教科書編修趣意書及び北海道教育委員会が作成した採択参考資料を基にした調査研究を行ったことを申し添えます。

初めに、調査研究の観点Aである北海道教育委員会が作成した採択参考資料を基礎資料とした調査研究内容を報告いたします。

インデックスの採択参考資料社会の公民1ページをご覧ください。

公民的分野の目標については、現代社会の見方・考え方を働かせ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することとされております。

公民2ページから公民13ページは調査研究結果が示されております。

そのうち、公民9ページの様式4の②アイヌの人たちの歴史・文化等を取り上げているページ数に特徴が見られました。

東書、教出、帝国では、アイヌ文化振興法の制定やアイヌ民族を先住民族とすることを求める決議の記載の後に、これから目指していくべきことや解決していくべき課題が問題提起されております。

さらに、東書では、特設ページが設けられ、アイヌ民族の人権に関する課題について把握し、人権を尊重する態度を育むことが可能な内容となっております。

続きまして、調査研究の観点Bである札幌市として設定する調査研究項目について報告いたします。

インデックス、社会の公1のページをご覧ください。

公民的分野は、合計8項目について調査研究いたしました。そのうち、1(2)ふるさと札幌を心にもつ学びに関わる学習の取扱い、3(1)課題探究的な学習の取扱い、4(3)その他の人権の取扱いについて特徴が見られました。

まず、1(2)ふるさと札幌を心にもつ学びに関わる学習の取扱いについてです。

この項目では、住民としての意識を高めることにより、将来自立した札幌人として、地域社会に関わろうとする意欲や態度を育てることが可能な内容となっているかを調査研究しました。

答申、公3と併せてスクリーンをご覧ください。

東書の特設ページ、別紙の「市長になって条例をつくろう」では、架空の市の課題を複数挙げ、市長として解決策や条例案を考え、将来、地域社会や地域の政治に参画していこうとする意欲や態度を育てる工夫がされております。

教出の特設ページの「まちづくりのアイデアを提言しよう」では、地域の課題を探ってみようという課題に対して、調査テーマの設定、情報の収集、解決策の検討、提言のステップが解説されており、地域社会の課題を解決していく方法を身に付けることが可能な内容となっております。

続きまして、帝国の特設ページは、「自分が住むまちのまちづくりを考えよう」が位置付けられており、自分が住むまちをよりよくするため、KJ法を使ってグループで話し合うことで課題を把握し、予算の面から解決策を考えることを通して、地域社会に関わろうとする意欲や態度を育てる工夫がされております。

続きまして、日文の特設ページは、「まちづくりに参加しよう」が位置付けられており、中学生がまちづくりに参加する事例を紹介することで、地域社会に関わろうとする意欲や態度を育てることが可能な内容となっております。

自由社は、地域社会に参画することについて、複数の資料とともに掲載されております。

答申、公1にお戻りください。

次に、3（1）課題探究的な学習の取扱いについてです。

この項目では、政治、経済、国際関係に関する事象を正確に捉え、公正に判断し、根拠を明らかにして適切に表現する力を育むことが可能な内容となっているかを調査研究いたしました。

答申、公5ページ、6ページをご覧ください。

東書の38ページです。

東書では、各章の導入の活動の70ページ、それから、章末のまとめの活動に同じ内容の学習課題が設定されており、学習課題について連続性をもたせることが可能な構成となっております。

42ページをご覧ください。

ページの上部には、課題を捉えるきっかけとなる複数の資料が位置付けられ、考える、読み取る、集める、見方、考え方のタイトルで、具体的に資料を活用する課題を示すことで、考えを深めることが可能な構成となっております。

次に、教出の39ページをご覧ください。

各章の導入部の「学習のはじめに」のページで、章のねらいや学習の見通しが示されており、これから学習する課題や内容について把握することが可能な構成となっております。

80ページをご覧ください。

各章末のまとめでは、章の問いの解決に向けて三つのステップが設定されており、自分の考えを整理し、話し合いを通して自分の考えを深め、自分の言葉で表現することができるよう、工夫された内容となっております。

次に、帝国の107ページ、108ページをご覧ください。

各部の初めに身近な生活の場面を描いたイラストのページが設定されており、これから学習する内容をつかむことができる内容となっております。

また、各章の導入に学習の前に章末に「学習を振り返ろう」という課題が設定されており、学習課題について連続性を持たせることが可能な構成となっております。

また、115ページをご覧ください。

毎時間の冒頭に、課題を捉えるきっかけとなる一つの資料を大きく掲載するとともに、資料の活用の視点を示すことで考えを深めることが可能な構成となっております。

次に、日文の34ページ、35ページをご覧ください。

各編の導入部の「学習の始めに」のページで、生徒にとって身近な場面を描いた漫画を掲載するとともに、これからの学習に見通しをもてる構成となっております。

また、76ページ、77ページをご覧ください。

各章の章末にある学習の整理と活用では、思考ツールが紹介されており、これらを用いて学習課題について考えを深めることが可能な構成となっております。

答申、公1にお戻りください。

最後に、4（3）その他の人権の取扱いについてです。

この項目では、様々な人権に関する課題を把握するとともに、人権を尊重する実践的態度を育むことが可能な内容となっているかを調査研究いたしました。

答申、11ページ、12ページにお進みください。

まず、東書の52ページ、53ページです。

平等権の学習資料として、東京都渋谷区の同性パートナーシップ証明書やSOGIの考え方について掲載されており、性の多様性への理解と配慮の必要性を考えることが可能な内容となっております。

また、74ページをご覧ください。

特設ページの「誰もが暮らしやすい共生社会」では、多様な性の意識をもつ人々への配慮について、ホテルや商業施設での具体的な取組が紹介されており、人権を尊重する実践的な態度を育む内容となっております。

次に、教出の68ページをご覧ください。

特設ページの新しい人権を考えるでは、インターネットが普及した現代の新しい人権について、ディベート形式で考えを深めることが可能な構成となっております。

次に、帝国の49ページをご覧ください。

特設ページの「偏見や差別をなくすために」では、脳性麻痺の中学3年生の作

文を紹介し、差別と偏見をなくすためのより具体的な取組を考えることで、人権を尊重する実践的な態度を育むことが可能な内容となっております。

次に、日文の50ページをご覧ください。

特設ページの「まちのバリアフリーを探そう」では、SDGs 未来都市に指定されている大阪府堺市の取組が掲載されており、身近な地域でのバリアフリーを探す内容となっております。

最後に、自由社の190ページをご覧ください。

特設ページの「もっと知りたい」のコーナーでは、日本人拉致問題について詳しく紹介されております。

以上で、公民的分野の説明を終わります。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、委員の皆さんからご質問、ご意見などがございましたらお願いいたします。

○石井委員 札幌市は子どもの権利条約を制定していますが、それについて小委員会では何か話し合われたかどうか、話し合われたとしたら、各者に何か特徴があったかどうかをお聞かせいただけますか。

○社会小委員会委員長 子どもの権利のことについては、各者それぞれに子どもの権利条約等について記載されております。

子どもの権利条約で示された四つの権利については、東書では49ページに、イラストとともに掲載されております。教出では71ページに、同じようにページの右側の欄外に示され、日文では65ページに、公民プラスアルファという中で掲載されております。

そこにありますように、条約においては、子どもの権利として、生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利の四つの権利が定められております。

ここから、阿部指導主事から説明を加えさせていただきます。

○阿部義務教育担当係長 補足させていただきます。

札幌市の子どもの権利条約においても、子どもにとって大切な権利として安心して生きる権利、自分らしく生きる権利、豊かに育つ権利、参加する権利の四つの権利が掲げられており、条約の四つの権利が掲載されていることで、条約と条例の内容の比較を通して、子どもの権利について学習することが可能となります。

○石井委員 ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにはいかがでしょうか。

○阿部委員 先ほどもご説明いただいたのですが、もう一度、課題探究という角度から見たときに特徴のある発行者がありましたら教えていただきたいと思っています。

○社会教育委員会委員長 課題探究につきましては、先ほども説明の中で若干触れさせていただいたのですが、東書の38ページ、39ページをご覧ください。

人権や憲法について学習していく導入部分として、各カードの違いがあってもよい違いか、あってはいけない違いかについて考えるページとなっております。

これを受けて、70ページ、71ページをご覧ください。

導入時に考えた各カードの違いについて、この章のまとめとして再度考えるページとなっております。つまり、自分の考えや人権や憲法について、この章の学習を通して、習得したものを活用し、どのように変容したのかを実感できるような課題設定、章の構成となっております。

帝国につきましても、東書と同様な特徴が見られる形となっております。

○長谷川教育長 ほかにはいかがでしょうか。

それでは、私から、ただいまの質問と少し重なるのですが、改めて委員長にお伺いしたいと思います。

調査研究の観点A、北海道教育委員会の採択参考資料を基礎資料とした調査研究、そして、調査研究の観点B、札幌市として設定する調査研究項目におきまして、特徴が顕著であった教科書についてお教えいただければと思います。理由も併せてお願いいたします。

○社会小委員会委員長 特徴が顕著な教科用図書は、東書、帝国の2者です。

2者とも、札幌市で大切にしている課題探究的な学習の充実に向けて、各章の導入部と章末に同じ内容の学習課題が設定されており、学習課題について連続性を持ちながら分析や考察することにより、章の学習を通して、何を学び、どのような力を付けたかを実感することができる構成となっていると考えています。

東書は、毎時間の学習の冒頭に課題を捉えるきっかけとなる複数の資料が位置付けられ、考える、読み取る、集めるなどの流れで資料の活用を促すことで考えを深めることが可能な構成となっております。また、性の多様性についての記

載が複数あり、理解と配慮の必要性を考えることができる内容になっていると考えます。

帝国は、各部の初めに、身近な生活の場面を描いたイラストが見開きで掲載されており、学習への興味関心を引き出すことが可能な内容となっております。また、毎時間の冒頭に課題を捉えるきっかけとなる一つの資料を大きく掲載するとともに、資料活用の視点が明確にされております。

以上の点から、2者を挙げさせていただきます。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

委員長からのご意見ですと、東書のほうは、考えを深めることが可能な構成になっているのではないかと、帝国のほうは、学習への興味や関心を引き出すことが可能な内容となっているのではないかと、この点において特徴が顕著であったということでした。

委員の皆様から、ただいまのご意見等も含めましてご意見をいただければと思います。

○佐藤委員 委員長のご提案のとおり、私も東書と帝国の2者を推したいというふうに思います。

東書につきましては、委員長も触れられていたかと思うのですがけれども、ほかの者に比べましてまとめと振り返りが非常に詳しいのです。その教材の構成がととても工夫されていて、私は注目しました。

帝国につきましては、これまでの地理、歴史と同じように、まず学習課題が明確に示されていて、その後、「確認しよう」「説明しよう」というものにおいて、課題探究的な学習が進めやすくなっているという点で、帝国もというふうに思います。

日文については、実は地理、歴史に比べて公民のところでは「深めよう」という問いが時々しか出てこなくなって残念だなということで、公民については東書と帝国ということをお願いいたします。

○道尻委員 私も、東京書籍と帝国書院を選択肢として残すということで同感です。

今まで出ているお話につけ加えるとすれば、これからの教育の一つ大切なこととして、政治参加とか社会参画ということが挙げられると思うのですが、この二つの教科書においては、具体的に考える教材が盛り込まれていて、その点での期待がもてると思います。



○長谷川教育長 それでは、そのようにさせていただきたいと思います。  
最後に、地図の調査研究報告（答申）のご説明をお願いいたします。

○社会小委員会委員長 今回、調査研究の対象となったのは、東書、帝国の2者の教科書であります。

これらの教科用図書について、教育委員会が定めた令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査研究の基本方針に基づき、公立・中正な立場から具体的な調査研究を進めてまいりましたので、報告いたします。

インデックス、採択参考資料社会の地図1をご覧ください。

この様式1の上段の教科の目標にありますように、社会科は、学習指導要領において、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することなどが重視されております。

1ページから7ページまでの調査研究結果において、二つの項目について、特に各教科書の特徴が見られましたので、ご説明いたします。

1点目は、生徒の学習意欲を高める工夫についてです。

採択参考資料の地図3、4ページの様式2をご覧ください。

スクリーンをご覧ください。

東書の73ページ、74ページと、帝国の61ページ、62ページに、両者ともに世界各州の学習に活用できる鳥瞰図を掲載しており、自然地形を捉えることが可能となっております。

特に、帝国においては、生活や文化、産業などのイラストを配した鳥瞰図を、南アメリカ、オセアニア、アフリカ等を含む全ての州について掲載しており、地形について関係するイラスト等があることで、苦手な生徒にとっても、その州の地形の全体像について捉えやすい内容となっております。

続いて、採択参考資料の地図6の様式4の③自然災害及び防災に関する内容を取り上げているページをご覧ください。

この項目においては、東書が九州地方のテーマ資料、日本の自然環境など8ページ、帝国が日本の各地方の防災の取組など17ページとなっております。

スクリーンをご覧ください。

東書の151ページ、152ページには、過去に日本で起こった自然災害について、地図とともに写真資料やハザードマップなど、複数の資料を用いて捉えることが可能な構成となっております。

続きまして、帝国の97ページには、地域における防災の取組として、過去に起こった阪神・淡路大震災による被害から得た教訓を基にした災害への備えが掲載されております。

また、132ページには、東日本大震災での被害と復興について、最後に、北海道地方で、144ページに、雪に備える札幌市など、過去に日本で起こった自然災害等に対する備えを取り出しているところに特徴が見られます。

また、帝国の149ページから150ページでは、日本の自然災害、防災について、見開き2ページで詳細に掲載しております。

次に、調査研究の観点B、札幌市として設定する調査研究項目について説明いたします。

答申のインデックス、社会の地図1ページをご覧ください。

地図においては、2項目について調査研究を実施いたしました。

まず、(1)地域社会の社会的事象に関わる教材の取扱いについてです。

この観点では、身近な地域への興味関心を高めるとともに、位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を捉えることが可能な内容となっているかについて調査いたしました。

特に、北海道地方の扱いについて詳しく調査しております。

答申、地図2ページをご覧ください。

両者とも、北海道地方南部、北部、札幌市周辺及び札幌市中心部、北海道地方全体図、北海道の基本資料等について掲載されています。

スクリーンをご覧ください。

東書の145ページの上のほうになります。

北海道地方の基本資料として、北海道地方の自然環境について、特産物や盛んな工業のイラスト等を掲載し、特徴を捉えやすくしています。

また、146ページの右側中央付近をご覧ください。

ここでは、稲作の北限の変化について掲載しております。農耕に不向きな土地を改良し、稲作を可能にしてきた先人の努力を捉えることが可能な資料となっています。

続いて、帝国の140ページになります。

帝国は、大判のため、札幌市周辺の地図では太平洋沿岸まで表されており、札幌市の位置がより捉えやすい構成となっております。また、札幌市中心部の地図には、札幌市の観光名所がイラストで表されており、札幌市の観光への興味関心が高まるよう工夫されています。

142ページには、日本とロシア(ソ連)の国境の変遷の地図資料を掲載し、現在の北方領土問題について理解することができるよう工夫されています。

答申、地図1にお戻りください。

最後に、(2)資料の取扱いについてご説明いたします。

この観点では、地図と併せて写真や統計資料などの具体的な基礎資料が活用できるような内容となっているかについて調査いたしました。

答申、地図3ページと併せて、スクリーンをご覧ください。

東書の39ページになります。

ここでは、古代から近世にかけての日本と世界との関係における陸上や海上交通の様子について、アジアからヨーロッパの地図上に位置付けるとともに、ヨーロッパで印刷された日本の地図を掲載しております。

95ページをご覧ください。

このように、古代から近代に至る様々な歴史上の資料や地図を掲載することで、歴史的分野の学習に活用することができる内容となっております。

続きまして、帝国の141ページです。

各地図に地図活用という具体的な課題を設定し、作業を通して、地理的な見方、考え方を育成することが可能な構成となっております。

自ら掲載されている地図を基に調べることが可能な構成となっており、自学自習の場面でも主体的に活用できるような内容となっております。

以上、社会、地図について説明させていただきました。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、各委員からご質問などがございましたらお願いいたします。

○道尻委員 先ほどのご説明の中でも触れられていたところがあるのですが、この二つの者の地図のサイズがかなり違います。扱いやすさとか見やすさ、情報量以外の点で、先ほどのご説明以外に小委員会で何か触れられているものがありましたらご紹介いただきたいと思います。

○社会小委員会委員長 確かに、東書と帝国で大きさが一回りぐらい違うのですけれども、帝国が大判になったことにより見やすくなった点について先ほども話しましたが、ほかにも、帝国の141ページ、142ページの北海道地方に掲載されている欄をご覧ください。

全体的に大きく掲載されていますが、青森県の津軽半島や下北半島も同じ地図に載ることができました。実は、東書だと、下北半島の北の一部しか掲載することができていませんが、帝国ですと津軽半島も載っているので、青函トンネルがどこでどうつながっているのかということも同じ地図の中で見ることもできるという特徴があるという話が出ておりました。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

○阿部委員 2点お伺いします。

まず1点は、冒頭でご説明いただいたのですが、鳥瞰図については、地図を選択する上では重要なポイントなのかと思うのですが、どういうところをポイントとして考えたらよいのかというのが1点目です。

2点目は、地図に対して苦手意識をもっているお子さんがいらっしゃるのかなと推測するのですが、そういうお子さんに対して取扱いの配慮などという点がありましたら教えていただきたいと思います。

○社会小委員会委員長 まず、鳥瞰図は、上空から斜めに見下ろしたような形式の地図であり、立体的に描かれているので、生徒が視覚的に捉えやすく、土地の起伏、高低差も子どもが非常に理解しやすい効果的な資料であると捉えております。

帝国においては、先ほども説明いたしましたけれども、そこにイラスト等も入っているということで、さらに生徒の興味関心を引きやすい形になっているのではないかという話が出ておりました。

それから、地図の苦手意識をもっている子についてですが、先ほどの鳥瞰図の中にもありましたけれども、イラストや写真などを入れながら国の位置をつかむという形で工夫されているのではないかと思います。それを見ることによって、子どもたちの地図に対する苦手意識をなくそうというような工夫がされているのではないかという意見が出ておりました。

○阿部委員 ということは、特に苦手意識のあるお子さんに対しては、両者も差分がないという認識でよいですか。

○社会小委員会委員長 そうというような意見だったと思います。

○阿部委員 ありがとうございます。

○佐藤委員 地図というのは、どこに中心を取るか、あるいはどの方向から眺めるかというように、複数の視点が大事になってくると思うのですが、そういう地図の掲載はありましたか。

○社会小委員会委員長 地図の視点ということで、東書では、一般図のほかに、鳥瞰図とか主題図、資料図を掲載し、各州や地方の資料についても豊富に掲載しているというふうに押さえております。

また、帝国でも、一般図のほかに、鳥瞰図、資料図を基に、巻頭にはヨーロッパ中心の面積が正しい地図とか……。

○佐藤委員 それは何ページでしょうか。

○社会小委員会委員長 帝国の3ページになります。下の部分に出ています。

あとは、冬時間帯の地図とか、地域を赤道で半分にし、極から見た北半球、南半球の地図など、視点を変えた様々なページが掲載されているという特徴があります。

○佐藤委員 東書にはどういったものがあるのか、聞き漏らしてしまいました。

○社会小委員会委員長 東書につきましては、鳥瞰図という形で載せていますし、資料図のような形でも幾つかのページで記載されております。

○佐藤委員 ありがとうございました。

○長谷川教育長 ほかにはいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 地図につきましては、東書と帝国の2者でありますので、2者とも選定の候補として、8月7日に1者に決定するという事によろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、そのようにさせていただきます。

大浦委員長、長時間、どうもありがとうございました。

それでは、これで協議第1号の本日の審議を終了いたします。

次回は、先ほど来申し上げておりますように、8月7日(金)に、中学校部会、高等学校部会及び中等教育学校後期課程部会並びに特別支援教育部会について審議をいたしますので、よろしく願いいたします。

そのほか、各委員から何かございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

【閉 会】

○長谷川教育長 それでは、以上で、令和2年第14回教育委員会会議を終了いたします。

長時間、どうもありがとうございました。

以 上